

判ニ對シ給據又ハ  
危険ヲ生スルノ恐  
レアルハ公安ノ  
為メ其事件ヲ同  
等ナル他ノ裁判所  
ニ移スコトアリ

治罪法第四  
百五十一條

第二百五十四條  
公安ノ為メ裁判管  
轄ヲ移スル訴司

建物ノ繪圖ヲ引クニハ紙ノ上下左右  
トモ照線ノ外一寸ヲ明ク置クベシ

警ハ面ノ如キ朱引ノ建物ヲ書入  
質ト為スハ第一番ヨリ第三番  
マテ合三棟ヲ書入質トナスコトヲ  
証文ニ記入シ面ト共ニ質取主  
ニ渡シ置クベシ

第二號書式

若シ一枚ノ紙ニテ狹キ片ハ何枚  
モ繼ギツギ目ノ裏ニ印ヲ押ベシ  
警ハ面ノ如ク朱引ノ建物ノ書入質  
ト第一番第二番合ニ棟ヲ書入質  
ト為スハ其旨ヲ証文ニ記入シ  
他ノ建物ハ墨引ニテ書入質ノ外

法卿ノ命ニ因リ大  
審院檢事長其  
院ニ之ヲ為ス

治罪法第四  
百五十二條

第二百五十五條  
大審院ニ於テ會議  
局ニテ訴訟關係人  
ノ申立ヲ聽クコトナ  
ク速ニ前條ノ訴ヲ  
判決ス

ナリト記シ圖面ト共ニ質取主ニ  
渡スヘシ  
但シ面ノ寫シ一枚ヲ戸  
長役場ヘ出シ置クベシ

第三號書式

何号  
何年何月何日  
何郡何町何番地  
何番ノ建物ヲ何某ヨリ  
何某ニ書入質ト為シタリ  
何年何月何日燒失  
以下前ノ書式ニ同シ

治罪法第四  
百五十三條

第二百五十六條 被  
告人ノ身分地方ノ  
民心又ハ訴訟ノ摸  
樣ニ因リ裁判ノ公  
平ヲ維持スルヲ能  
ハサルノ恐れアル  
ニ付嫌疑ヲ為シ檢  
事其他訴訟關係  
人ヨリ裁判管轄

第四號書式

前文書式第三号ニ同シ但建物書  
入質記載帳ハ買受又ハ讓受ノ  
ヲ書入  
可シ

○二重書入之証

証

一金何百圓也

十圓毎ニ一錢  
印紙ヲ貼用ス  
但利子一圓ニ付  
一ヶ月何程

此書入

何郡何町何番地  
何區何村何番地

ヲ移スノ訴ヲ為ス  
為ノ其趣意書ニ

通テ書記局ニ差  
出セハ書記速其  
一通ヲ對手人ニ送  
達ス

治罪法第四百  
五十四條ヨリ  
第四百五十  
六條ニ至ル

第二百五十七條 對

一 建家

又ハ土  
藏家

梁間  
格行

何間  
何間

右者自分所持之建物過ル何年何月

幾日何區何村何番地 住居 寄留 何ノ誰方

ハ書入仕金子何圓借用候処右代價

見込餘分モ在之候ニ付即チ何人ハ

示談ノ上其分貴所方ハ抵當トノ書

入本文ノ金圓借添候儀確實也然

ル上ハ來何年何月何日元利返濟可

手入公其送達ア  
リタルヨリ三日内  
ニ答非書ヲ差出  
セハ書記之ヲ受  
取リ一切ノ書類  
ヲ候セテ大審院  
ニ送致ス若シ答  
非書ヲ差出サ、  
ルハ其他ノ書類  
ノミ之ヲ大審院

致候若期限遷延候節ハ加印ノ者罷  
出約定ノ通前書ノ建物致糶賣候代  
金ヲ以テ急度為相濟可申其証如斯  
ニ候也  
年月日其他書式全上(但シ初書入ノ  
金主モ連印也)  
○流地證文之事  
何番地何号字何々  
一上田何反何畝步

ニ送致ス  
(治罪法第四百  
五十六條第二  
項)

第二百五十八條前  
條ノ訴アリタルハ  
ハ裁判所ニ於テ其  
訴訟手續ヲ停止  
ス  
(治罪法第四  
百五十八條)

第十七章 裁判

此代價何圓也  
右田地賃物差入去ル何年何月金百  
圓借用致候処及満期正金如數難相  
整候ニ付定約之通地所並ニ地券狀  
共其儘流質ニ致貴殿江相渡候処相  
違無之然ル上者於此田地子孫ニ至  
迄聊申分無御座候間御勝手次第貴  
殿ヨリ御願之上名前御書替永世御

執行

第二百五十九條 重

罪輕罪違言罪ノ

刑ハ裁判確定後

ニ非サレハ之ヲ執

行セス

(治罪法第四

百五十九條)

第二百五十條 死

刑ノ言渡確定シタ

ルハ檢察官ヨリ

所持可被成候依而流質引渡證文如

件

年月日其他書式讓主住所姓名組

合惣代住所姓名証人住所姓名各

捺印宛名引受人

○並合證文之例

記

(十四毎二一錢  
印紙ヲ貼用ス)

一金何圓也

但シ利息一  
ケ月金何程

速ニ訴訟書類前

法卿ニ差出ス

司法卿ヨリ死刑ヲ

執行ス可キ命令

アリタルハ三日

内ニ其執行ヲ為ス

(治罪法第四

百六十條)

第二百六十一條 死

刑ノ執行ニ付テハ

書記其始末書作

右ハ我等家業要用ニ付所持ノ何品

何物何ノ誰方土藏借受差入有之候

何品並合ニ相渡シ置書面金高借用

申処實正也返濟ノ儀ハ来ル年号何

月迄ノ内右品賣拂代金ヲ以可致返

進候其期月迄ニ相場引下ケ候ハ

何時成共差金不足ノ分相渡可申萬

一期月ニ至リ藏出シ不致返濟及延

リ刑ノ執行規則ニ  
從ヒテ會ヲ為シ  
タル官吏ト共署  
名捺印ス

(治罪法第四百  
六十三條第一  
項)

第二百六十二條 裁

判言渡確定シ又  
ハ欠席裁判アリ  
タル片ハ書記ニ

引候ハハ貴殿方ニテ御賣拂元利共  
御請取可被成候為後日証書如件  
年月日其他書式全上

(併シ戶長奧印)

○物品讓與証

証 (界紙ヲ用ニ)

一何々品 何程  
右者今般貴殿懇望ニヨリ讓與候条

於テ左ノ既決犯罪

表ヲ作ル但大審院

ニ於テ刑ノ言渡ヲ

為シタル片ハ其執

行ヲ為シタル裁判

所ノ書記之ヲ作ル

(治罪法第四百六

十四條及ヒ十四

年司法省丁第三

十三号達)

永ク重寶可被成候也

年月日其他書式全上

○動產物賣渡証文之事

一何品

右ノ品此度金何十圓ニ賣渡則代金

隨ニ受取申候処實正也若シ此物品

ニ付不審ノ義亦相懸リ候節ハ出呀

既決犯罪表離形明治十四年司法省丁第三十三号達依リ

左 離形ヲ定ム

イ号目錄

伊藤某	一丁
生駒某	二丁
飯塚某	三丁

(一) 括弧  
六朱書

何裁判所既決犯罪表

(伊藤某)

氏名	伊藤某
年 齡	(何年何月)
職 業	(何々)
住 所	(何縣何國何郡何村何番地)
出生ノ地	(同上)
水 籍	(同上)
罪 名	(竊盜)
刑 名	(重禁錮何年又ハ何月)
犯 數	(初犯又ハ再犯)
裁判年月日	(何年何月何日)
對審席區別	(對審裁判又ハ次席裁判)

第二百六十三條 前  
條ニ掲クル既決犯  
罪表字ヲ犯人本籍  
ノ地ノ輕罪裁判所  
檢事ニ送達ス可シ  
右送達ヲ受ケタル  
檢事ハ其旨ヲ犯人  
本籍ノ地ノ戶長ニ  
通知シ該表ハイロ  
ハ標字ニ從ヒ區別

正敷次第私方迫モ器出急度申披キ  
貴殿へ毛頭御迷惑相掛ケ申間敷依  
テ御定ノ印紙糊付差入置候証書依  
テ如件

年月日其他全上

○地券預リ証

何區何町何番地

借主 氏

名 印

編纂致置シ可犯  
人ノ前科取調ヲ要  
スル片ハ犯人本籍  
ノ地ノ輕罪裁判所  
檢事ニ照會シ檢事  
ハ編纂致置タル  
既決犯罪表ヲ送致  
ス  
(明治十四年司法  
省令第百三十三号  
達)

何區何町何番地

一間口 何間

一奥行 何間

此坪數 幾坪

券金何百圓也

住所全上

貸主 氏

名 印

右誰所有ノ地所賃入地ニ受取金何  
圓用達候ニ付前書券狀一通年季中  
借主誰方へ預リ申候返金ノ節無相

違相戻可申候為後日如件

年月日其他書式全上

○預金証券ノ事

(十四年毎二一錢 印紙ヲ貼用ス)

一金何百何十圓 但シ利足一ヶ月

右金子預リ置候處相違無之御入用

ハ節ハ一周間前御示談在之候得ハ 元利計算證券ト引替聊無淹滯返納

既決犯罪表裁判 確定シ又ハ欠席裁 判アリタル片其言 渡ヲ為シタル裁判 所ノ書記之ヲ作ル モノトス但一葉一 人ヲ記載シ(イロハ) ノ順序ヲ以テ氏名 ヲ區別シテ之ヲ編 織シ探討ニ便ス可

可致依テ為後日如件

年月日其他書式全上

○諸敷金預リ証

(一號印紙ヲ貼用ス)

一金何圓也 右ハ貴殿何々商開店ニ付為敷金書

面之通牒ニ預リ申候處實正也然ル 上ハ御注文ノ品金高何圓迄ハ何時

ニテモ差遣可申為後証如件

シ

表中ノ朱書記載

ノ一例ヲ示スモノ ナレハ(口)以下之

ニ準ス

(十四年司法省丁 第三十三号達未 項)

二百六十四條 刑

ノ言渡ヲ受ケタル 者其言渡ノ條件



ニ付疑義ノ申立

ヲ為シタルルハ左

ノ如ク之ヲ判決シ

又其旨渡ノ執行ニ

付異議ノ申立ヲ為

シタルルハ其判決ヲ

スル書式モ亦願テ

左ニ示ス

(治罪法第四百

六十六條)

年月日其他全上

○賣預之證書

一米何百石 但何程入何儀

右之米賣却代價金何程正ニ受取申

候依之即刻可被引取候處足船車差

支候ニ付當分相預リ申候間御都合

次第何時成共此證書ヲ以テ引替相

渡可申候為後日其証如斯候也

疑義ノ申立ヲ為シタルル判決スル書式

判決書

住所身分職業氏名儀云々事件ニ付明治何年何月日當何裁判所ニ

於テ刑法第何條ニ依リ何々ノ刑ニ処スル旨裁判言渡ヲ受ケタレ

凡其刑期長短ノ範圍内ニ於テ何月又ハ何日ヲ科セラレシモノナ

ルヤ判決文中明示ナキヲ以テ如何心得可然ヤノ旨申立タリ依テ

氏名ノ陳述及ヒ檢事意見ヲ聽キ右裁判ハ刑法第何條ニ何々ノ

アルニ照シ其範圍内ニ於テ輕懲役何月ニ処シタルモノト判定ス

依テ右裁判言渡ス者也  
明治何年何月何日

某裁判所

判事氏名  
書記氏名

執行ニ付異議ノ申立ヲ為シタル片判決書式

住所職業氏名何々事件ニ付明治何年何月日當裁判所ニ於テ刑  
法第何條ニ照シ輕微何年ニ処シ罰金何十圓付加スル旨ノ裁判  
言渡ヲ受ケタルモ其言渡ニハ云々トノミニテ何々ノ別命之レ無  
故其執行ヲ受ケ難キ旨申上ツ依テ氏名ノ陳述及ヒ檢事ノ意見ヲ  
聽キ右裁判ハ刑法第何條ニ云々トアルヲ適用シタルモノナルヲ  
以テ何々ニ処シタルモノト判定ス

右檢事氏名出廷ノ上裁判言渡スモノ也

明治何年何月何日

某裁判所ニ於テ

判事氏名  
書記氏名

第二百六十五條 他

ノ裁判所ニ於テ刑

ノ言渡ヲ受ケタル

者逃亡シタル後

内ニテ捕ニ就キタ

何處何村何番地

賣主氏名印

何ノ誰殿

○金穀預証券之心得

所  
三頁八十五

ル場合ニ於テ人違  
ノ申立アリクル片  
ハ之ヲ認定ス可キ  
為ノ其裁判所選  
致ス又裁判所ニ於  
テ本犯ナルヲ認  
定スルハ能ハサル  
中ハ事實參考ノ  
為メ曾テ其事件ニ  
干預シタル裁判官

証文面預金穀ノ名目ニテ利足有之  
又ハ預人ハ融通セシムル歳ヲ以テ札  
金ヲ受ル等己巳六月二十五日以前  
ノ分ハ裁判ニ及ハズ  
○証書中封印ノ儘預置候カ融通使  
用ヲ為サバルノ明文ナキハ出訴ス  
ト雖モ七年五月一日ヨリ貸金全様  
裁判ニ及ブベシ

檢察官書記又原告  
被告ノ證人ヲ呼出  
ス一アリ  
(治罪法第四  
百六十七條)  
第二百六十六條前  
二條ノ場合ニ於テ  
ハ公廷ニテ刑ノ言  
渡ヲ受ケタル者ノ  
申立及ヒ檢察官ノ  
意見ヲ聽キ裁判官

○五十年或ハ百年前ノ預金ニテ預  
ケ預リノ両主トモ死亡シ相續人共  
ニテ其時ノ請狀明瞭ナラズトモ証  
書面年期無之ハ取上ケ裁判スベシ  
○預金穀ノ訴訟ハ其證書中ニ封印  
ノ儘預リ置キ候哉或ハ預リ中融通  
使用ヲナサバル明文アルモノハ年  
數ニ拘ハラズ受理スベキ成規ニ候

渡ヲ為ス但其言渡  
ニ對シテハ上訴ヲ  
許サズ

(治罪法第四  
百六十八條)

第二百六十七條 賠  
償及ヒ訴訟關係人  
ニ償還ス可キ裁判  
費用ニ付キ其言渡  
ノ執行ハ通常民  
事ノ規則ニ從フ

自今二十年以前ニ係ルモノハ一  
切裁判ニ不及候

○加利息預金之証

記 (加利息ニ付毎拾町  
一錢印紙ヲ貼用ス)

一金何千何百圓也

右ハ貴殿貯蓄金ノ処券面之通正ニ  
預リ置候事確實也尤其際流融ノ約  
定ニ付為利子金何圓ニ付何程ノ算

(治罪法第四  
百六十九條)

第十八章 復權  
及ヒ特赦

第二百六十七條 復  
權ノ願ハ刑法第六  
十三條ニ定メタル  
期限經過シタル後  
刑ノ言渡ヲ受ケタ  
ル者ヨリ司法卿ニ

程ヲ以テ金何程宛毎月幾日可致交  
付且本金專用ノ時ハ此証書引換ニ  
テ返却可致候若異常ノ儀有之候節  
ハ保証人何某預リ主ニ代リ可致償  
還候為後日預証券如斯候也

年月日其他書式全上

○賣上証文

(一錢印紙貼用ス)

一何品 何箇

(何國産或ハ製其他詳記スヘシ)

右之品此度金何拾圓ニ賣渡シ則代  
金慥ニ請取申候処實正也若其物品  
ニ付他ヨリ不審之儀相掛候節ハ出  
所正敷次第私何方迄モ罷出急度申  
披貴殿へ毛頭御迷惑相掛申間敷依  
而御定之印紙糊付差入置候證書如

之ヲ為ス

復権ノ願書ニハ本

入署名捺印シ現ニ

住スル地ノ始審裁

判所檢事ニ之ヲ差

出ス

(治罪法第四

百七十条)

第二百六十九條復

権ノ願書ニハ左ノ  
書類ヲ添テ可シ

一裁判言渡書 附  
本 件

年月日其他書式全上

○手附金請取之証

記 (一錢印紙貼用ス)

此手附金何拾圓也

右ハ代金何程ニ賣渡為手附請取申  
処實正也殘金來ル幾日迄ニ御持參  
無之候ハ取引致破談手附金相流

本

二主刑ノ満期特赦

又ハ期滿免除ト

為リタルトテ證

明スル書類

三假出獄及ヒ假ニ

監視ヲ免セラレ

タルノ證書

四賠償及ヒ裁判費

用ヲ赤濟シ又ハ  
其義務ヲ免カレ  
タルノ證書

五過去現在ノ住所  
及ヒ生計ヲ記載  
スル書類

(治罪法第四  
百七十一條)

第二百七十條 復  
権ノ願ヲ裁可アリ

返進品物勝手ニ賣捌可申候為後證  
如件

年月日

住所

氏

名印

何ノ誰殿

○桑樹賣渡之証

記

一金何拾何圓也

何村何番字何々ノ畑地植工付  
置候桑樹何本此桑樹凡

タルニ付檢事ヨリ

其裁可狀ノ謄本ヲ

送致シ来リタルハ

ハ判事書記ヲシテ

之ヲ裁判書渡書ニ

記入セシム

(治罪法第四百七  
十六條第三項)

第二百七十一條 特

裁ノ裁可アリタル

ニ付檢事ヨリ其特

何拾駄介

右御立會ノ上大數見積リ候也

一何百何拾駄分

右者我等所持ノ畑地或ハニ植付有

之候桑枝貴殿ニ賣渡前書ノ代價不

殘受取候処確實也然ル上ハ来春

蚕中御勝手ニ御截取可被成候有桑

枝ニ付外方ヨリ被是申出候者一切

新撰書式之略

二百八十九

款狀ノ謄本ヲ送致  
シ來ルルハ亦前条  
ノ手續ヲ為ス

(治罪法第四  
百八十条)

第二百七十二條 治

罪法中犯人證人等  
押印ノ條々實印

之レ無キ者ニ限リ  
從來ノ慣例ニ依リ  
押印ヲ以テ實印

無之候為後日証札依而如件

年月日其他書式全上

○商品買取約條証

(印紙全上)

一何品

此手附金何拾圓也

右者代金何程ニ買取為手附金相渡

申候尤殘金來ル幾日迄ニ不差出候

ニ換フ

(明治十四年司法  
省丙第十六号達)

第二百七十三條 治

罪法ニ定メタル拘  
引狀ノ期限ニハ總

テ休暇ノ日ヲ算入

ス可ラス但平常休

暇ナキ官署ニ付テ

ハ此例ヲ用ヒス  
(同十五年司法省  
丙第四号達)

ハバ約束之通手附金御流シ或  
御勝手ニ品物御賣排相成候共一言

申介無之為後證如件

年月日其他書式全上

(賣渡シ主ヲ買  
受主トナス也)

○商品約定為取換之証

何國ノ産乎

一何品

何程

第二百七十四條 治

罪法中第三百八十

一條第一項ニ若シ  
船護人ナクシテ免  
論ヲ為シタルハ  
刑ノ言渡ノ効ナカ  
ル可シトアレ其  
裁判所々屬ノ代言  
人無之場所ニ於テ  
ハ當分ノ内免護人

代金何百圓也

内金何圓為手附正ニ預リ置申候  
右之通賣渡約定致候処實正也依テ  
来ル何月幾日限無相違殘金引替右  
品相渡可申候若期限ニ至及違約候  
儀有之候ハ右手附金相戻シ候上  
違約償トシテ金何圓無違背相渡可  
申後証約定一札依テ如件

ヲ用セザルニ其判

ノ言渡ハ無效限

ニ在ラス

(同十五年大政官  
第一号布告)

第二百七十五條 本

年月第五十四号ヲ

以テ輕罪ニシテ豫

審ヲ要セサルモノ

ニ限リ治安裁判ニ

於テ輕罪裁判所

年月日其他書式全上

○賣買為取換約定書

何國製カ

一何品 何程

此代價金何百圓也

内金若干圓着手ト相渡申候

右ノ品今般買取可申致約定候処確

實也依テハ何年何月幾日迄ニ無相



開クヲ得ヘキ旨布  
 告候処當分ノ内相  
 川豊岡洲本田辺脇  
 町高山西郷平戸福  
 江豊原天草大島大  
 曲八戸ノ各泊安裁  
 判所ニ於テハ輕罪  
 裁判所ヲ開キ總テ  
 ノ輕罪ヲ裁判スル  
 儀ト心得ヘシ

違殘金何百圓相渡右品引取可申候  
 若萬一其期日致淹滞候ハ前書ノ  
 着手金其終御引取ハ勿論為違約金  
 何拾圓致至無遲延差出可申候為後  
 當ノ償金致  
 証約定ノ証如斯ニ候也  
 年月日其他書式全上

○商品為替手形  
 証

但本文ノ場合ニ  
 於テ訟廷内治罪  
 ノ手續等ハ本年  
 第五十四号布告  
 但書ノ通りタル  
 可シ  
 (十四年大政官  
 第七十七号布  
 告)  
 審判手續 大尾

一何品 何程

代價何千圓也

右ハ拙者方へ請取可申替之品此  
 度為替ニ致交互候間地名此何其殿  
 へ可被致遞附候也

年月日 住所 氏名 印  
 交互ヲ請フ先ノ姓名宛  
 ○商法利益金分配之証

民刑訴訟手續

民事之部

第一章 民事裁判

所権限

(明治十四年布告第八十三号)

治安裁判所及ヒ始審

裁判所ノ権限左ノ通

リ制定ス

右奉 勅旨布告候事

第一條 治安裁判所

記

一金何千何百圓也

右ハ何々商法ニ付利益高是ヲ基立

金二分與スレハ金何圓ニ付何程

一金何百何十圓也

右利益金負ナリ資本出金ニ應シ御

渡申候也

年月日

何社長

氏

名印

ハ訴訟事件ヲ勸解

ス但諸官廳ニ對ス

ル事件及ヒ商事ニ

係リ急速ヲ要スル

事件ハ勸解スルノ

限ニアラス

第二條 治安裁判所

ハ請求ノ金額及ヒ

價額百圓未満ノ訴

訟ニ付キ始審裁

○為替手形書式

證

(金ノ多寡ニ應シテ 錢印紙ヲ貼用ス)

一何千圓也

右ハ先般致輸送候何品何程代價ノ

内此度貴境地區名何某殿へ為替ニ約

定候間來何月幾日限リ前今人へ可

被致交付候也

年月日

住所何商社

氏

名

印

判ヲ為ス

第三條 治安裁判所

ハ人事其他金額ニ

見積ル可カラサル

モノヲ裁判スル一

ヲ得ス

第四條 始審裁判所

ハ請求ノ金額及ニ

價額百圓以上并ニ

第三條ニ掲ケタル

何社何ノ誰殿

○同其二

証

一金何百圓也

右ハ何區何町某殿為替金正ニ請取

於其地此手形持參候ハ拙者印鑑

照合ノ上無相違正金ト御引替御渡

可被成候為其為替証如件

何府何區何町番地

年月日

氏

名印

何国何所 何某殿

○枝手形之事

(金ノ多寡ニ應シ一  
鐵ノ印紙貼用ス)

一金何百何拾圓也

右ハ何某就要用金何程我等方ヨリ

差出申候内ハ加入被成候処實正也采

治安裁判所權外ノ

訴訟ニ付キ始審ノ

裁判ヲ為ス

第五條 始審裁判所

ハ其管轄地内ノ治

安裁判所ノ始審裁

判ニ對スル控訴ニ

付キ終審ノ裁判ヲ

為ス

但控訴ノ手續ハ

新撰書式文格

明治十年第九

号布告控訴手續

ニ照準スヘシ

第二章 訴答

文例

六年布告第二  
百四十七号

今般訴答文例并附録

別冊ノ通被相定候ニ

付来ル九月一日ヨリ

原被告入共訴答式

何年何月限右何某ヨリ返金次第元

利共急度相渡可申候為後日枝手形

依テ如件

年月日

住所 氏 名 印

○荷物為替手形

一何品

何百箱

代金何千圓也

都テ此例ニ照準可致

此旨相違候事

別冊

訴答文例

第一卷 原告人ノ

訴狀

第二章 原告人ヨ

リ被告入住所身

分ノ書付ヲ取ル

事

右ハ拙者方へ受取可申答ノ品々此

度為替ニ取組候條其御地何某殿此

手形ヲ以テ請取ニ可被參候間無違

滞御渡可被下候也

年月日其他書式全上

○荷為替送り狀ノ事

一米何千石

但シ一儀ニ付

何斗入

第一條 訴訟ヲ為サ

ントスル原告人ハ  
其管轄ノ村役場ノ  
添翰ヲ以テ被告人  
ノ現住管轄ノ村役  
場ニ至リ被告人ノ  
身分ノ書附ヲ取り  
タル後訴狀ヲ作シ  
ル可シ若シ住所氏  
名身分明瞭ナラ

此荷為替金何千圓也

當地何所

荷主 何某殿

其地ニテ

何某殿

右荷物何港何某所持ノ何丸ハ積廻  
シ候間荷着ノ上嚴重ニ御檢査御請  
取可被成候也

○陸荷送り狀

ハ其書附ヲ取ルニ  
及ハス

住所トハ某所管  
下某國某郡某村  
住居又ハ寄單記  
スノ類身分ト官  
名役名華族士族神  
職僧尼百姓何職  
何商賣何渡世ト  
記スノ類

一何品

何箇

薦卷或ハ筵包或ハ箱  
但目方一箇ニ付何程

右ハ此度通運會社ハ積出ニ指立候  
間着到次第照査ノ上御受取可被下候  
也

年月日

住所

氏

名印

住所

何ノ誰殿

○水運送狀

若シ一戸ノ本主ニ

非ラスミテ子弟

又ハ厄介ノ類某

ノ子弟又ハ某厄介

ト記スヘシ

第三條 原告人警

人ト管轄ヲ異ニ

シ道路隔絶ナラ

ハ原告人我管轄

ノ村役場ニ願ヒ後

一何品

何拾箇

但一箇ニ付目方何拾貫目

或ハ何々符何十貫目

右幾日出帆何号飛脚船何々繼へ寄

託致輸送候間着港岸ノ期照查ノ上

可在受領候也

年月日其他書式全上

○動産物預リ証券

一何品

場ノ文通ヲ以テ被

告人ノ氏名住所身

分ノ書附ヲ取ルモ

亦妨ケ無シトス但

シ役場文通ノ費

ハ原告人ヨリ償フ

可シ

但此章原告外

國人ナル時ハ本

人名前本國職

右ノ品正ニ相預私土藏へ積入置候

処相違無御座自然後日檢査ノ節書

面ノ負數ト照合不都合ノ義有之候

ハハ私引受急度相辨へ聊御迷惑相

掛ケ申間敷候依テ後証如件

年月日其他書式全上

○利益金割合約定ノ式

記

新撰書式文様

分及七寄出外

ヲ訴狀中ニ記載

シ次ニ被告ノ名

前職分住所等

委細記載ス可

シ

第三章 代書人

ヲ用フル事

第三條 (七年第十号) 布告改正

第四條 全上

一金何千圓也

右ハ何々ノ商法ニ付利益ノ金額銘

々出金多寡ヲ以テ頒計ノ上可致遞

付候也

年月日 住所 氏名 印

(連名認ル)

○配分金受取之証

一惣金何百圓也

第五條 全上

第三章 訴狀ノ

定則ノ事

第六條 訴狀ヲ作ル

ニハ左ノ定則ニ循

ラ可シ

第一 訴狀ハ簡明

確實ニシテ憑拠

ト為ス可キ事件

ヲ掲ケ文飾冗長

此金何十何名ニテ配分

一名ニ付所取金何程

右券面ノ金圓交會ノ上各々請取候

処確實也然ル上ハ此金圓分賦ノ儀

ニ付更ニ異論無之後日連印ノ証如

件

年月日 連名 印

何ノ誰殿

○會社入金証

新撰書式文様

第何号

一金何千圓也

右ハ今般蒙官許何々會社基立ニ付  
社入金正ニ請取申候処實正也然ル  
上ハ別冊規則書ノ通毎年何月何日  
限歲出入計算ノ上出金高三平賦實  
益分配可致候依テ後証如件

何々會社

ナラサルヲニ注  
意シ自己ノ想像  
ヲ以テ踪跡ナキ  
事件ヲ述ルルヲ  
得ス  
第二一切ノ訴狀  
ハ首ニ原被告人  
ノ氏名ヲ記シ住  
所身分ヲ肩書  
シ其末ニ年月日

ヲ記シ原告人ト

氏名スヘシ

但外國人ノ為

メニハ第三章

但書ヲ見ルヘ

シ

第三 訴狀ノ末ニ

署スル氏名ハ其

本人自署ス可シ

若シ自署スル

年月日

住所

發起人

氏

名印

頭取

氏

名印

何ノ誰殿

○會社加入金手形

証

(印紙貼用  
前ニ全シ)

一金何千圓也

右ハ當會社ハ加入金為資本正ニ預  
リ置候若又退社ノ節ハ如社則割合



新撰書式文庫

紙ハサル時其  
昔ヲ氏名ノ肩ニ  
記スヘシ

第四 訴狀ハ十六  
行ニシテ一行十  
五字ヲ認メ並  
副ニ通ヲ具奇  
シ

但外國人ノ訴  
狀ハ銘々英佛

此証券ト引換金子返却可致候也

年月日

何會社長  
氏 名印

○利足附商社入金手形

一金何千圓也

右ハ當商社へ加入ノ為証金正ニ受  
取申候尤利足ノ義ハ何圓ニ付一ケ

語ヲ以テ認ル

一ヲ得ヘシ其  
日本翻譯ハ裁

判所ニ於テ正

副ニ通ヲ認メ

其手數料ヲ取

立ツヘシ

第五 被告人ノ住

所呼出ヲ受テ可

キ裁判所ノ八里

月何程ノ割合ヲ以テ毎月幾日限リ  
相渡可申候若退社ノ節ハ元利決算  
返濟可致候也

何商社

頭取 氏 名印

出納 氏 名印

何ノ誰殿

○割賦返濟手形

記

新撰書式文格

ノ距離外ニ在ル  
時ハ其里數ヲ被  
告人ノ氏名ノ左  
側ニ記載ス可シ  
若シ八里以内ナ  
ル時ハ其里數ヲ  
記載スルニ及ハ  
ス  
第四章 訴狀ノ  
書式ノ事

一合金額何千圓也  
右ハ是迄各方ヨリ借用在之候諸品  
代金滞致正算候処我等身代不如  
意ニ相成還積難相立候ニ付無廻住  
居建家土藏及ビ日用ノ所在物不殘  
指出シ相償度申入候処御差引被下  
由ヲ目今所在ノ物品別箋ニ如記載  
可致通却候間各方一同交會ノ上可

第七條 貸附米金事

ノ訴狀  
貸附米金等滯滞  
ノ訴狀ハ住所氏名  
ノ次ニ米金元利ノ  
計算ト算渡シタル  
年月日トヲ標記シ  
次ニ證書ノ全文ヲ  
記載シ次二期ヲ過  
キテ返済セザル事

然様領付御配受可被下候尤右諸品  
ニ付外方ヨリ異儀申出候者在之候  
ハ保証人引受可致辨解候也

住所身分  
氏名  
眞實  
氏名  
全上  
氏名  
保証人  
氏名  
各人地名ヲ記ス  
何ノ誰殿  
連名各殿  
○分散一札

新撰書式文格

宗持書シタル

情ヲ書スベシ

田由ラ債渡シタル

小作米金又ハ物品

ノ損料金又ハ諸種

ノ立替金又ハ召抱

人等ノ引負金又ハ

職人等ノ前米金

又ハ債地債家等ヲ

受取ラントスルノ

訴狀モ亦本條ニ照

一惣金高何千圓也

右ハ是迄各方ヨリ借用有之候諸品

代金滞正業仕候処我ホ身代不如意

ニ成放債難相立候ニ付無惣我ホ住

居建家土藏及ヒ商賣体ノ有物類不

残差出相償ヒ度申入候処御兼知被

下依テ自今所在ノ物品如別紙記載

御渡可申候間御一統御立合ノ上可

スヘシ

但以下十九條迄

原告外國人ナル

時ハ其訴狀送

意差願意ヲ簡

明ニ記載スヘシ

但附録第十八号

ヲ見合スヘシ

第八條 預米金

滞ノ訴狀

然様御割付御受取可被下候尤モ右

諸品ニ付外方ヨリ一切異議申出候

者無之候也

住所身分

年月日

員價主氏

名印

証人氏

名印

何ノ誰殿

○商物賣渡後一時預証書

証

新撰書入

三百二

預ケ米金淹滞訴

狀モ住所氏名ノ次

ニ米金ノ負數ノ預

ケタル年月日トラ

標記シ次ニ其証書

ニ全文ヲ寫載シ次

ニ違約シテ返済セ

サル事情ヲ書スハ

借地等ノ敷金又ハ

一何品

銘アラバ

何程

右代價何圓也

右代價濟ニテ正ニ預リ置候也何時

ニテモ此証契交換ニテ可致通送候

也

但シ此印手ニテ御拂

ノ義ハ御勘可申候

○頼母子講金受取証

年月日

住所氏

名印

妻及ヒ養子女等ノ

持參金又ハ實家

若クハ親族等ノ

仕送り金ヲ受取

ントスルノ訴狀モ

亦本條ニ照スヘシ

第九條 賣掛代金

淹滞ノ訴狀

賣掛代金淹滞ノ

訴狀モ住所氏名

記

一金何程也

右ハ頼母子

無尽ノ講金當何會

自私落關ニ

相成其書ノ金子正ニ受取候

也附テハ残り懸金ノ儀ハ

毎年何度

無相違滿會ニ至ル迄此度掛戻シ

可申候万一差支候節ハ受人引受無

滞致辨償決テ講中ノ迷惑ニ不相成様

(界紙ヲ用ユ)

新撰書式

可致候為後証如件

ノ次ニ金高ヲ標

記シ次ニ其帳簿

計ノ高ヲ出シ次ニ

違約淹滞シタル事

情ヲ書スヘシ

第十條 手附金賣

買違約ノ訴狀

諸物品ヲ買ヒ手附

金ヲ渡シ約定期

限内ニ殘金ヲ渡サ

年月日

住所身分

受取人氏

全上

保証人氏

名印

名印

會主 何ノ誰殿

○飯食物類切手

記

金廿五錢未滿ハ界紙ニ不  
及金廿五錢以上ニ四五  
錢未滿ハ一錢印紙印紙貼  
用五圓未滿ニ錢以上右準ス

ントスル時ニ至リ

被告人違約シテ

諸物品ヲ渡サル

ノ訴狀モ住所氏名

ノ次ニ買附タル物

品ノ總高次手附

金ヲ渡シタル年有

日及ヒ殘金ヲ渡

物品ヲ受取ル可キ

約定期限ノ年月日

一何々品

此代價金額何程

右代價金額正ニ受取預リ置候処実

正也御入用ノ節ハ何時成共差上可

申候尤モ前日御注文被下候ハ別

段精撰致シ此切手引換ニテ右品差

上候也

年月日其他書式全上

ヲ標記シ次ニ約定

書ノ全文ヲ記載シ

次ニ違約ノ事情

ヲ書ス可シ

諸物品ヲ賣リ手

付金ヲ受取リ約

定期限ニ至リ残

金ヲ受取ル可キ

時ニ被告入違約シ

テ殘金ヲ渡サル

○商品賣預切手

記

(一錢印紙ヲ貼用ス)

一清酒何樽何升

代金何圓也

右代價濟ニテ慥ニ預リ置候明正也

何時ナリトモ此切手交換ニテ可致

進進候也

但金四ニテ返却ノ儀ハ難致候

ノ訪状モ住所氏名

ノ次ニ手附金ヲ受

取リタル年月日及

ヒ殘金ヲ受取物

品ヲ渡ス可キ約定

期限ノ年月日ヲ標

記シ次ニ約定書ノ

全文ヲ記載シ次

ニ違約ノ事情ヲ書

ス可シ

年月日其他書式全上

○官費工作請負証書

御請負書之事

何國何州  
何村何地

一堤防切所

但長サ何間  
馬踏何間

敷何間

此土坪平均何程  
此請負金何百圓

新撰書式文格

第十二條 受領料

諸職業者受領料滞  
ノ許狀モ住所氏名  
ノ次ニ受領セラル  
年月日ト受領金  
高ト既ニ受取リテ  
ル金數ト未リ受取  
ラサル金數トヲ標  
記シテ二約定書ヲ

右者去ル何月何日洪水ニ付堤切出  
来田畑悉皆水庭ニ相成早速其良御  
届申上且御普請奉願上候処場所御  
檢査ノ上從前官費之旧記書類在之  
候ニ付修繕御注文帳御下付渡相成  
村方請負普請被仰付難有奉畏候然  
ル上者本月何日ヨリ日數何日限リ  
築立可申候尤御普請中如何様之儀

全文ヲ写載シテ次ニ  
違約ノ事情ヲ書  
スヘシ

第十三條 奉公違

約ノ許狀  
奉公人ニ年期ヲ約  
シ前金ヲ渡シ其年  
期未滿内ニ其家ヲ  
出テ還ラサル者ヲ  
取返サントスルノ

出来候共決テ増金數願等申上問數  
候注文之通堅固ニ築立御見分ヲ請  
可申候依之御請負証書奉差候依  
而如件

年月日

何郡何村

名印

惣代 氏

名印

何縣長官宛

全上

氏

戸長 氏

名印

訴狀モ住所氏名  
 次ニ抱入レタル年  
 月日ト約定ノ年期  
 ト前渡シノ金數ト  
 ヲ標記シ次ニ其証  
 書ノ全文ヲ寫載シ  
 次ニ違約ノ事情  
 書ス可シ  
 職業傳習ノ弟子  
 職業練熟ノ後禮

○普請ニ付御請書  
 一私當何月何日家屋普請仕度ニ付  
 奉願候処御檢査之上左之通  
 (御書下ケノ依ヲ寫ス)  
 右達ノ趣奉畏候仍テ御請書如件  
 年月日  
 何郡何村何番地  
 氏名印  
 前書之相違無御坐候以上  
 右界村

奉公ノ年期ヲ約シ  
 年期未滿内ニ其家  
 ラ出テ還ラサレ者  
 ヲ取戻サントスル  
 ノ訴狀モ亦本條ニ  
 照スヘシ  
 奉公人又ハ弟子奉  
 公ノ者等其生命  
 西ヨリ受取ル可キ  
 給米金淹滞訴狀

何府 長官宛 名印  
 (但長官宛ニシテ所  
 轄警察署へ出ス)  
 ○官物御拵下約定金上納證  
 証  
 一金何程  
 但何々御拵下ニ付入札金高  
 内金何圓 約定金上納



若亦本條三照可  
十三條 專賣免  
許ヲ犯シタルノ許  
狀  
專賣免許ヲ得  
ル者ヨリ他ノ換  
賣スル者ヲ差留  
メントスルノ許狀  
モ住所氏名ノ次ニ

右金高ヲ以テ落札被仰渡奉承知候  
右約定トシテ内金書面ノ通り上納  
仕候殘金ノ儀ハ来ル何日現品引換  
無相違上納可仕候方一私方ヨリ違  
約仕候節ハ右約定金違約ノ償トシ  
悉皆上納可仕候依而後証如件

何縣何國何區何村番地  
掛受人氏 名印

專賣免許ヲ得タル  
年月日ト免許ヲ受  
ケタル後所ノ名ト  
專賣免許ノ年限  
トヲ標記シ次ニ免  
許ノ証印又ハ誓書  
ヲ寫載シ次ニ其密  
賣ノ事情ヲ書スヘ  
シ  
諸商工專賣ノ免許

公上 戶長氏 名印  
何縣長官宛(長官宛ニシテ  
出納課ハ出ス)  
○盜火難紛失新券請取書  
一何々國何區何村何番地所表口何  
間與行何間地券盜火難ニテ紛失候間  
新券御書下之儀奉願候処御吟味之  
上今般御渡ニ付拜受仕候就而者最

ナクシテ株式ヲ稱スル者ハ自己ニ妨アルヲ以テ他人ノ商業ニ差留ル事ヲ許スルコトヲ得ス

第十四條 商社中取引ノ許狀

商社中申ノ商人ヨリヒノ商人ニ對シ各種ノ取引承金

前御渡ノ地券爾後可為不用旨被渡奉差知候仍テ御請書如件

年月日其他書式全上

○新券請取一例

何郡何村何番地

一屋敷地沽券狀

壹通

但間口 何間

奥行 何間

此總坪數何坪

此地價金何百圓

右何年月日附地券狀何年何月何日

盜難ニ遇致燬燒候ニ付御書下ノ儀

奉願候処今般券狀御下渡シ相成正

ニ受取申候依テ最前御下渡ノ地券

ハ以來可為不用旨被仰渡奉畏候也

年月日其他書式全上

○送籍受取書式

又ハ物品ノ類ニテ

乗合商賣ト稱スル

者モ証書確實ナル

ル者ハ之ヲ許スル

コトヲ得可シ其許狀

ハ取引ノ模様ニ付

キ各種ノ本條ニ照

ス可シ  
先ニ聞キシ商社ニ  
後ニ聞カントスル

商社ノ効クル一ハ

ルヲ以テ之ヲ訴ル

一得ス但シ事實

免許ヲ犯ス一得

サルノ法ト相抵触

スル一ナル可シ

第十五條 夫妻離別

ノ訴狀

夫妻離別ノ訴狀モ

住所氏名ノ次ニ夫

旧住所番地

族籍氏名

妻 下婢 九 邑

一送籍狀

一通

右之者從來其町住居ニ候処今般何

々ノ儀ニ付當町へ移住送籍証被差

越正ニ請取申候示來當町籍ニ可致

編入候也

妻ノ氏名生年及ヒ

婚姻ノ年月日標

記シ次ニ其長役

場へ届置トタル戸

籍人別ヲ記載シ次

ニ離婚ヲ為ス可シ

原由ヲ書ス可シ

原告人夫ナレハ其

父母若シ父母在ラ

サレハ祖父母變

何縣

戸長氏名印

何縣何國何郡何町

戸長 御中

○出稼証書之式

出稼証ノ事 (用紙)

何縣管下何國何郡何町

何番地

何業何某幾切

何某

新撰書式文様

母在ラサレハ親族ノ親尊族ノ親在ラサレハ同等親同  
等ノ親在ラサレハ卑族ノ親卑族ノ親在ラサレハ近隣又ハ朋友ノ内三人以上ノ奥書連印ヲ為スコシ  
(附録第六号ヨリ  
照合ス可シ)

氏神 何ノ神  
寺 何宗何寺

右ノ者當年ヨリ其何業何某方ハ借家何業ヲ何ケ年出稼致度旨申出以爲雇人  
當方差問無之候間右年限中其何寄留御作法通御取計可被成候為寄留  
証書如件

年月日 右村 戸長 氏 名 印

何藩管下

原告人妻ナルモ前

條ニ照シテ其父母

親族等ヨリ訴ヲ可

シ若シ事危急ニ

テ親族等ニ告ルニ

暇ナキハ自ラ訴

ルイテ得可シ

第十六條 養子離

別ノ訴狀

養子等離別スル

何國何郡何村

戸長 御中

○詫入一札

一本月幾日我等貴殿へ對シ不埒ノ義有之候ニ付既ニ出訴ニモ可相成  
処右ハ至ク酒狂ノ上ニテ元來意趣  
遺恨等差合ノ義ハ毛頭無之今更前  
非悔悟仕候間即何某殿へ依頼仕御

新撰書式文様

新撰書式文様

ノ訴狀モ住所或  
ノ次ニ養父母及  
養子女ノ生年ト其  
養子女ト為シタル  
年月日ヲ標記シ次  
ニ原被双方ノ戸籍  
人別ヲ記載シ次ニ  
離別ノ可キ原由ヲ  
書シ原告ノ親族ヲ  
ラサレハ近隣又ハ

詔申入候処御勘辨被下奉奉存候以

来此度相慎可申候依テ詔入証書如

件  
年月日 住所 氏 名印

何ノ誰殿

○共有ノ約ニテ婦ノ持參スル

賤産請取証

一此度何ノ誰依御媒何ノ誰殿息女

朋友ノ内二人以上  
ノ親書連印ヲナス  
可シ

本生父母ヨリ養子

女ニ取戻サントス

ルノ訴狀モ本條ニ

照ス可シ本生父母

在ラサレハ其親族

ヨリ訴ルヲ得可

シ養子女ヨリ養父

ヲ娶候ニ付金何十圓正ニ請取候実

正也万一不縁ニ相成候ハ假令幾

年相立候トモ金額無相違可致返却

候為其証書如件

年月日 住所 氏 名印

親類惣代 氏 名印

何ノ誰殿

○夫婦共有ニ非サル賤産ヲ婦

母ヲ相手取リテ自  
ラ離別ヲ請フノ訴  
ヲナスコトヲ得ス  
第十七條 家督相  
続ノ訴狀  
家督相続ヲ爭フ訴  
狀モ住所氏名ノ次  
ニ亡父母ハ死亡ノ  
年月日生父母ハ其  
生年ト原被告ハ生

ノ持參シタル時ノ請取証  
一此度何ノ誰依御媒何ノ誰息女ヲ  
娶候ニ付金何十圓及何郡何村何番  
地何反何畝歩共持參候ニ付請取候  
処実正ニ御座候尤談金子及地所共  
夫婦共有ニ無之專ラ妻誰ノ所有ニ  
候得共其取扱等ハ拙者擔當致月々  
入額計算書相認妻誰へ相渡置可申

年トラ標記シ次ニ  
其原被双方ノ戶籍  
人別ト讓狀遺狀等  
ノ証書アレハ其全  
文ヲ寫載シ次ニ自  
己相続ス可キ條理  
ト被告ノ人相続可  
キ條理ナキコト書  
ス可シ  
(附録第六号ニ  
見合ス可シ)

候尤妻誰ノ專有品タリ凡無故浪費  
致候節ハ其旨及御通知御相談ノ上  
可致候若万一離縁等致候節ハ無論  
前書ノ金額誰ニ持歸ラセ候義相違  
無之候為其証書如件  
年月日其他書式全上  
○女房敷金手形之証  
一此度貴殿依御媒何ノ誰殿息女ニ

新編

新編

第十八條 田畑山林等賣買違約訴

狀

田畑山林屋敷建家ヲ買ヒ之ヲ受取ラントスルノ訴狀及ヒ貸地貸家ヲ取戻サントスルノ訴狀モ第十條ノ第二項ニ照ス可シ

金何十圓ト何柵家屋敷何ヶ所トノ

沽券何通相添娶申候萬一不縁ノ儀

ニテ親元工帰シ候節ハ假令幾年相

立候共金子沽券書面ノ通無相違可

致返却候為後日一札如件

年月日

住所身分

姓名

全上

名印

婦ノ里父方或ハ兄ノ名

田畑山林建家等

賣リ之ヲ引渡シテ

其代價ヲ受取リシ

トスル訴狀モ第

條第二項ニ照ス可

シ

第十九條 境界事

テノ訴狀

國郡鄉村山川里

等ノ分界ヲ争フ訴

○人事ニ關係スル証券

(証券界紙ヲ用ユ可シ)

○養子一札差入申証

一貴殿子息誰今般我等養子ニ貫

受候処実正也然ル上ハ向後実子出

生致候共跡式ハ無相違右誰ニ可致

遮讓為後日媒人連印仍而如件

年月日

住所身分

姓名

名印

狀モ住所氏名ノ次  
 ニ其旧記繪圖致  
 數ヲ標記シ次被  
 告人ノ非理ヲ書  
 可シ  
 旧記繪圖ノ写別  
 冊ト為シ目錄ヲ附  
 シ各番号ヲ朱書ス  
 可シ  
 繪圖ハ色ヲ以テ區

全上  
 保証氏  
 名印  
 実父  
 何ノ誰殿

○実親之証差入申證(全上)  
 一此誰ト申者我等実子ニ御座候処  
 此度何某殿媒ヲ以貴殿ハ養子ニ差  
 遣候処実正也然ル上ハ生長ノ後無  
 謂取戻度儀決テ申間敷候萬一無扱

別シ原告ノ區域ハ  
 淺紅色ヲ用ヒ被告  
 ノ區域ハ黄色ヲ用  
 ヒ争フ所ノ區域ハ  
 着色ヲ用ヒ其  
 ノ經界ハ別色ヲ用  
 フ可シ(附録第七  
 条見合ス)  
 但第七條但書  
 ヲ見ル可シ

譯合出来候ハ實意ヲ以及頼談御  
 承知ノ上ニ而取計可申候為後日證  
 書如件

年月日  
 住所身分  
 実親 氏 名印  
 全上  
 親類代氏 名印  
 養親  
 何ノ誰殿  
 ○養女一札差入申證(全上)



第二十條 控告ノ訴

狀

原告人豫審又ハ終審ノ裁判言渡ヲ受ケ其裁決ニ服セシメテ之ヲ上等ノ裁判所ニ控告セントスルノ訴狀ハ住所氏名ノ次ニ訴訟ノ題目ト

一貴殿実娘誰儀此度我等養女ニ貴受候上ハ成長ノ後良智ヲ迎ヘ跡式不殘相讓可申候若無據事故有之他家へ縁付候共他聞不宜醜行等為致申間敷候右様ノ儀有之候ハ其許ハ御引取被成候共養育料等彼是無心ケ間敷儀一切申出間敷候也  
年月日其他書式全上

其年月日ト裁判所

ニ呼出サレタル度ニ數其年月日ト訴訟ニ臨ミタル裁判後ノ氏名ヲ知ルヲ得可キニ於テハ之ヲ記載シ次ニ其裁判言渡書ノ写ト裁決ニ服セサルノ旨趣トヲ書シ且前訴

○實父之証

(全上)

一我等娘誰儀此度何ノ某殿媒ヲ以貴殿方へ養女ニ差遣申候就テハ生長ノ後貴殿跡式御讓被下候共又ハ他家へ縁付候共貴殿御存意ニ被成候テ少シモ異論無之候且無謂取戻候儀申間敷万一無執譯合ニテ取戻候ハハ相當ノ養育料差出可申候為

新撰書式文格

狀ノ字ヲ別冊ト為シ訴出可シ

後日如件

年月日其他書式全上

○跡式讓狀ノ証(一紙ノ印)

第五章 一冊ノ  
 訴狀ハ一事件ニ  
 止マル可キ事  
 第二十一條 原告  
 人共人員多少ニ拘  
 ラス訴狀ハ一事ヲ  
 一冊ニ書スルニ限

一我等跡式并ニ家屋敷家財悉皆有  
 金何千何百圓其方へ讓遣候処相違  
 無之候尤何郡區何町村ニ所持ノ建  
 家土藏且田畑何町步何村ノ内山林  
 何町步并新製川蒸瀛何丸ハ次男誰

ル可シ又原告人一  
 名ニシテ全時ニ數  
 件ヲ訴フルモ訴狀  
 ヲ各冊ニ作ル可シ  
 第六章 一冊ノ訴  
 狀ニシテニ件以  
 上ヲ合スヲ得ル  
 事

へ附與致候然ル上ハ自今益友愛ノ  
 情義ヲ尽シ家業無怠聊ニテモ違乱  
 ケ間敷儀在之間敷依テ親類証印於  
 眼前御規則之印紙貼用讓狀依テ如  
 件

年月日其他書式全上

○預リ子養育ノ証

(証券界紙)

第二十二條 貸借ニ  
 事以上ニシテ府被

新撰書式文格

三百十七

告人共別人ニ非ラ  
サレハ一冊ノ訴狀  
ニシテ二件以上ヲ  
合スヲ得ヘシ  
第二十三條 債主連  
名ノ証文ヲ以テ米  
金等ヲ貸附ル訴  
狀ハ連名ヲ以テ訴  
フ可シ若シ債主連  
名三人ナルヲ一人

一貴殿御子息令娘誰殿當何月御出  
生ノ処乳汁不足ニ付私愚妻或ハ妾  
誰ヘ乳扶持トソ月々金何程ニ相定  
其外時ノ衣服等被相贈候御約束ニ  
テ我等方ヘ預リ申候処実正也然ル  
上ハ病氣其外遺棄ノ儀在之節ハ早  
速可致報知候若養育方行届不申候  
乎愚妻長病又ハ乳汁減少ニ相成候

ニシテ訴フル時ハ  
他ノ二人ヨリ依頼  
ノ証書ヲ以テ訴フ  
ハシ  
(附録第八号ヲ  
見合ヌ可シ)

第二十四條 債主ニ  
人以上ニシテ管轄  
ヲ異ニスル者アラ  
ハ甲ノ管轄ニ訴ル

ハナニ何時成共御引取可被成候為後  
証仍テ如件

年月日  
住所身分  
預リ人氏 名印  
右妻又姉妹  
大連

何ノ誰殿

○乳母雇請狀

一此何ト申者當何月ヨリ一ヶ月給

モ乙ノ管轄ニ訴ル  
モ其便宜ニ從テ可  
シ

第八章 連名被  
告人ヲ訴フル事

第二十五條 負債主  
連名ノ人数ヲ尽ク  
相手取ル可シ

第二十六條 負債主  
連名中若シ失踪死  
シ

古等ニテ相續人ナ  
キ者アラハ連名ノ  
末ニ其人ノ名ヲ記シ  
年月日失踪死等  
ノ事ヲ其者ノ管  
轄戸長某ヨリ承  
ルト附載スヘシ  
(附録第九号ヲ  
見合ヌ可シ)

第二十七條 負債主

金何程ニ季仕着ノ御約定ヲ以其許  
ハ乳母雇入ニ差出シ則給金正ニ受  
取申候此者生國何府縣下何國何村誰  
ト申者娘ニテ慥成者ニ付我等請人  
ニ相立申候処實正也然ル上ハ令兒  
大切ニ御養育為致候ハ勿論ニ候得  
共若御家法ニ相背キ候乎乳汁減シ  
候乎或ハ幼訓ニ不相適ノ見習セ等

御座候得バ更ニ相當ノ者相撰ニ代  
人可相立候事  
一雇入ノ身分ト雖モ乳母ノ儀ニ候  
得バ年限中無故御暇願出申間敷事  
右ノ外此者ニ付如何様ノ儀出求候  
共請人罷出速ニ埒明貴殿ハ少シモ  
御煩勞相掛申間敷候為後日乳母雇  
入請狀依而如件

入請狀依而如件

ノ連名中管轄ヲ  
 異ニスル者アラハ  
 甲ノ管轄ニ於テ審  
 判スルヲ願モルノ  
 管轄ニ於テスルヲ  
 願フモ原告人ノ情  
 願ニ任ス可シ  
 第九章 讓証文  
 ヲ以テ訴フル事  
 第二十八條 (本条ハ明  
 治九年九月九日  
 法律第二十號ニ  
 依リテ制定ス)

年月日 住所 親氏名印  
 乳母被雇 犬

何之誰殿  
 ○雇人請狀 (証券界紙)  
 證

何縣何國何郡何村何番地  
 農誰幾男又ハ姓  
 氏名 年 齡

第十九号布告ニ  
 テ删除セラレ  
 第二十九條 (会上ノ  
 子但書ヲ除ク)  
 外删除  
 但外國人ハ其本  
 人ノ國法ニ隨ヒ  
 正シキ權ヲ得ヘ  
 シ  
 (明治九年第九  
 十九号布告)  
 金銭等借用証書ヲ  
 其貸主ヨリ他人ニ讓  
 与スル者ハ其本  
 人ノ國法ニ隨ヒ  
 正シキ權ヲ得ヘ  
 シ

右之者當何年何月ヨリ來ル何年何  
 月迄一ケ年ノ間何雇ニ指出候処確  
 實也給金何程ニ取極メ内金何程正  
 ニ受取申候殘金ノ儀者追々當人江  
 御渡可被下候若此者不協意ニテ期  
 限中暇被下候款又ハ本人無執事故  
 ニテ給暇候節八月數ニ應シ給金御  
 差引被下此者引取可申候右致約定

渡ス時ハ其借主ニ証書ヲ書換ヘシムヘシ  
 若シ之ヲ書換ヘシメサルニ於テハ借主ノ讓渡証書有之トモ仍ホ讓渡ノ効ナキモノトス此旨布告候事但相續人ハ讓渡ハ此限ニアラス

候上ハ一切我等共引受聊尊勞相  
 掛申間敷候為後證仍如件

年月日

住所身分

請人

名印

全上

氏

名印

何ノ誰殿

○年季雇入請狀 (全上)

証

何縣何國何郡何町番地

第十章 代官ノ事

第三十條 (本条ハ明治九年第十八号布告ニテ別條)

第三十一條 (全上)

第三十二條 (全上)

(明治九年第十号布告)  
 明治六年(七月)第二  
 百四十七号布告訴  
 答支例中代官ノ條

地借身分何ノ誰幾  
 店借 氏 名

年齢

右ノ者今般工業為傳習本年何月ヨ

リ来ル何年何月迄中何箇年期ニ相

定貴殿方ハ修行小者ニ差出為手當

給金何程請取候処實正也尤夏冬仕

着被下候条承知仕候若職業熟練候

新編法律書

來三月三十一日限廢  
シ候奈此旨布告候  
事

但代言人ノ儀ニ付  
テハ別ニ司法省ヨ  
リ布達可有之事

第二章 被告人ノ  
答書

第一章 答書定

奉公可為致候上  
若本人不協意ニテ  
暇被下候節ハ早速引取可申候病氣  
其他等ニテ私方ヨリ給暇相願候ハ  
右之御手當金返上可仕候万一年限  
中不埒ノ儀在之候ハ貴殿方本人  
身ニ付如何様之事故出来候共我等  
共引受貴殿へ煩勞相掛申間敷候為  
後日其証如斯候也

年月日其他書式全上

○金拾圓以上記載雇人請狀

請狀之事 (十四年二月一號)

則ノ事

第三十三條 答書ヲ

作ルニハ左ノ定則

ニ循フヘシ

第一 被告人裁判

所ノ呼出狀ト共

ニ原告人ノ訴狀

ヲ受取ル時原告

人ノ陳述スル所

條理アラハ速ニ

年月日其他書式全上

○金拾圓以上記載雇人請狀

請狀之事 (十四年二月一號)

一金何程 但一ヶ年分給金

内金何程受取申候

右何ノ誰身元出所等本人持參ノ出

稼証ノ通り慥ナル者ニテ拙者引受

本年何月ヨリ來ル何年何月迄満一

新編法律書

三十三

熟議シ原告人之  
ヲ許諾セハ解  
ヲ請フ事ヲ得ヘ  
シ其場合ニ於テ  
ハ代書人(附)ヲシ  
テ熟議解訟ノ  
答書ヲ作ラシメ  
之ヲ裁判所ニ呈  
スハシ

ケ年ノ間雇人トシテ貴殿方ハ差出  
シ前書何ケ月分給金正ニ受取残リ  
何ケ月分給金ハ何月何日御渡被下  
候等約定仕候処実正也右期限中何  
々縁出精可致者勿論無謂本人ヨリ  
暇為願間敷候万一病氣事故等ニ而  
御暇被下候節者給金精算ノ上身分  
可引取候其外如何様ノ儀出来候共

(第四十七條及四  
八條ヲ見合スヘシ)

第三 原告人ノ述

ル所非理不実ニ  
ニシテ非解ス可  
キ確証アラハ其  
書類ノ全文ヲ寫  
載シ次ニ非理不  
実ノ事ヲ書ス可  
シ

第三 答書ノ首ニ

被告ノ氏名ヲ

新撰書式文略

総テ拙者引受申聊御迷惑相掛申間  
敷候為後証一札如件

年月日其他書式全上  
○公私雇人身元引受保証  
書式

何縣下何國何郡何村番地  
身分 氏 名 年齢

(寄留ナレハ又戸主ニアラ  
サレハ共ニ其事ヲ記ス)



記シ住所身分ヲ

肩書ニシ答書ノ

未ニ年月日ヲ記

シ被告人ト代書

人(附)トノ氏名

連印アル可シ

(附録第十三号)

見合ヌ可シ

署スル氏名ハ其

水人ノ自筆ヲ用

右之者身元行狀慥成者ニ有之奉職被雇

中御家則之趣謹クテ可相守儀私ニ於

テ保証仕候若病氣借賤其他不都合

ノ事有之節ハ一切引受毛頭御迷惑

相掛不申候又私他府下へ移住仕候

儀有之候ハ別ニ引受人相立可申

候保証如件

年月日 住所 氏名 印

ユ可シ若シ本人

自署スルヲ能ハ

サルキハ其旨ヲ

氏名ノ肩ニ記ス

可シ

第五 答書ハ十六

行ニシテ一行十

五字語ニ認正

副ニ通ヲ具ス可

差出スベキ先ノ姓名宛

○ 御用 人預証書

住所身分

名

一右ノ者御用問中宿下ノ儀奉願候

願之通私ニ御下ケ渡被下正ニ奉預

候然ル上者本人宅ニ於テ嚴重ニ為

相慎御用ノ節ハ何時成共召連罷出

可申候御預管中萬一遁去等仕候節

可申候御預管中萬一遁去等仕候節

第二章 代書人

ヲ用フル事

第三十四條 (明治十七年第七十五号布告)

ヲ以テ削除

者御法律ヲ以御罪科被仰付候共一言ノ申分無之候依テ御預証文差上申候以上

住所身分

年月日

戸長 氏

名印

第三章 代書人ノ事

ノ事

第三十五條 (明治十八号布告)

ヲ以テ削除

第三十六條 (全上)

○委任状

(証券界紙ヲ用ス)

一拙者義就病氣何ノ誰ヲ以テ部理代ト相定左ノ権限ノ事ヲ為致代理

第三十七條 (全上)

第四章 原告人

ノ返リ証文ヲ所

有シタル事

事

第三十八條 負債主

米金等ヲ返シテ

ルニ債主原ノ証

書ヲ送附サルヲ

以テ二重ノ催促

候事

一何郡何町何番地何ノ誰ニ相係候

貸金催促ノ義奉訴候事件代理ノ委

任状如件

住所身分 年月日 氏

何ノ誰殿

名印

第五章

ナス許證ハ被告入  
 其書書返リ証文  
(返リ証文ハ債主ヨリ原ノ証書ヲ運附セムシテ其米金受取ノ証書ヲ交附スルヲ云)  
 フラ記載シ次ニ原告人ニ重ノ催促ヲ為シタル旨ヲ書寄シ

雑之部  
 〇出版々権御願(無板権之書ナレハ出版御届トス)  
 何誰編輯又ハ著譯  
 一書名  
 何年何月出版  
 右者何誰又ハ編輯者又ハ著譯何々ノ事ヲ記載致シ一切條例ニ背キ候儀無之候間今度示談ノ上出版致シ度猶版

米金等受取ルノ証書ニシテ貸附ノ米金受取リタルノ証書ヲ以テ返リ証文ト看做スヨリ得ス第五章 原隻ヨリ返濟定期約ヲ破リタル者書ノ事

推免許奉願候也(出版局ナレハ猶ヨリ以下此段御届申上候也トス)  
 何府下身分  
 年月日 編輯者又ハ著譯 氏 名印  
 全上 住野  
 出版人 氏 名印  
 内務卿某殿  
 右願書ニ通認ノ又外ニ通認ノ縣廳ハ湖ム此一通ニハ戸長ノ奥印ヲ請フ可シ且ツ内務卿名宛ノ奥書ニ左ノ通記スシ

第四十條 借用米

金等ヲ返濟ス可キ  
期限三季リ有債  
主ヨリ債主ニ  
シテ返濟延期約  
ヲ結ビ其証書押  
印ヲ為シタル借主  
ヨリ其約ヲ破リ本  
証文ニ批リ訴ヘタ  
ル卷書對談札

右之通額 出度別紙正副二通差  
出候間宜敷御取計奉願候也

何府知事 何某殿  
出度人氏 名印

〇 翻刻御届

一書名 何冊大(繪圖ナレ)  
何年何月出扱

右者(何官廳) (人民ノ裁扱) 何々

(對談一札ハ返濟  
延期ノ証書ヲ云フ  
アルナリ記シ次ニ  
其証書ノ全文ヲ寫  
載シ次ニ原書ノ  
約ヲ破リタルコトヲ  
書スヘシ)

記載シタル書ニシテ一切條例ニ背  
キ候儀無之候間今度翻刻致度此段  
御届申上候也

年月日 何縣下身分  
翻刻人 氏 住所 名印

第四十一條 負債

返濟延期約  
ヲ破リタル事件ヨ  
リ起リ債主本變

内務卿某殿

〇 出版延期御届

板権草何号

二枚り訴出タル原  
 由アル時ハ管領至  
 ナル者己レヨリ約  
 ヲ破リタル返濟延  
 期ノ証書ヲ以テ原  
 告人破約ノ証ト為  
 スコトヲ得ス  
 第六章 原告人  
 証書ヲ偽造シ  
 ル答書ノ事  
 一書名 何冊 大(繪圖ナレバ) 小(繪圖ナレバ)  
 右ハ何年何月日出版御届致シ被  
シモハ出版以下) 何年何月出版可致  
 被推免許相成下ス  
 外都合ニ被リ何年何月迄出版延  
 期致度此段御届申上候也  
 年月日 何職身分  
 出版進期人氏 姓名  
 内務卿某殿 姓名  
(地方長官宛ノ書式上ニ全シ)

第四十二條 被告  
 ノ証書ヲ原告人偽  
 造シタル答書其  
 偽造ヲ証スル為ニ  
 管轄所ノ役場届  
 ケ置キタル年月日  
 ノ人別帳ノ写ヲ記  
 載シ次ニ此人別帳  
 ノ印ト証書印ト  
 相違シタル旨ヲ書  
 付今度再版致度此段御届申上候也  
 一書名 何冊 大(繪圖ナレバ) 小(繪圖ナレバ)  
 何年何月出版  
 右ハ何年何月日出版御届致シ被推免  
得シモ  
ルニハ出版以下ニ) 代被推免許相成何  
ルニ下支ヲ用ユ  
 年月日出版致シ候者ニシテ一切條  
 例ニ背キ候儀無之候外被推免  
 相違シタル旨ヲ書付今度再版致度此段御届申上候也

町奉行書式ノ各  
 目  
 三番十八

ス可シ

第七章 經界

第四十三條 國郡郷

村山川田宅等ノ

分界ノ事ニ對シテ

ノ方法ハ第六九條

ヲ照ス可シ

第七章 既ニ訴

ヘラレタ

何縣身分  
年月日 出候人 氏 名印

内務卿某殿

(地方長官宛ノ書式上ニ全シ)

○版權(著譯) 御届

何誰(著譯)

一書名

何冊(大中小) (繪圖ハ寸法)

何年月日 版權免許ヲ得テ何誰

ニ訴ヘラレシムル  
事件ヲ接統スル  
事

第四十四條 買主

主米金ヲ返濟ス可

キ期限ヲ過キテ返

濟セサルヲ訴ヘテ

レタルニ別ニ其債

主ヨリ受取ル可キ

米金アリテ其受取

所有候處今度示談ノ上何誰 買受テ

得候ニ付(板主死去相續人受継ノ片

用)何年月日今人死去私扱權相統致

候ニ付此段御届申上候也

年月日 何縣身分

賣主(板主又ハ全) 氏 名印

買主(板主又ハ全) 氏 名印

(板主死去相續人受統シ者) 氏 名印

ハ独リ其者ノ名ヲ以テス

ル可キ期限モ亦過  
キ未ク訴ヘスト金  
比双方均ク返済  
約期ヲ破リクルヲ  
以テ兩件ニ接続シ  
差引ノ計算ヲ為  
サントスル書書ハ  
負債書ヨリ其別ニ  
受ル可キ米金ノ証  
書ヲ記載シ次ニ差  
引計算ヲ為スル旨  
ヲ書ス可シ

免  
一府縣廳ノ印  
表書板推  
免  
表書板推  
免

全何年月日改題  
府縣廳ノ印  
書名

内務卿某殿

○板推免許証裏書  
地方官宛ノ書式上ニ合シ但シ板推免  
許証裏書ハ御証印被成下度云々  
ノ數字ヲ加フヘシ

板推相続人 氏 名印

引計算ヲ為スル旨  
ヲ書ス可シ  
第四十五條 負債書  
甲某債主トシテ其ヨリ  
借用シタル米金ヲ  
返済スヘキ期限ヲ  
過キテ訴ヘラレタ  
ルニ答フルニ當リ  
甲某其借用シタル  
米金ハ更ニ丙某ニ

裏何年月日何誰印  
族籍  
何、誰殿  
全

(参考) 裏書余白ナキニ至テハ更ニ免許  
狀書換願出ヘシ但シ願出ル者ハ  
手数料トシテ其製本三部ノ定  
價ヲ納ムヘシ

○改題御届  
添題御届  
板推草何号

貸附々其期限過  
キ返濟セサルヲ以  
テ既ニ訴ヘラレシ  
ル乙某ニ事件ノ未  
ク訴ヘサル丙某ノ  
事件トヲ接續シテ  
丙某ノ返濟ヲ為ス  
可キ米金ヲ以テ乙  
某ニ返濟セントラ  
答ルテ訴サス何ト

一原書名 何冊大中（繪圖）  
一添書名 何冊小（寸法）

右ハ何年月日出板御届致シ得シモ  
ハ出板以下ニ代  
ルニ下文ヲ用フ  
扱權免許相成候  
處今度都合ニ依リ前書ノ通改題添  
ナレハ都合ニ依リ以下原名ハ其終  
ニ代ルニ下文ヲ用フ  
存シ別ニ何々ト添題致度此段御  
届申上候也

ナレハ乙ノ貸ス所  
ノ者甲ニシテ丙ニ  
非ス丙ノ借ル所ノ  
者ハ甲ニシテ乙ニ  
非ラサルヲ以テナ  
リ  
第九章 對決前熱  
議解散ヲ為シテ  
ル答書ノ事  
第四十六條 被覓

何縣身分  
年月日 氏 名印

内務卿某殿  
（地方官宛ノ書式上ニ合シ）  
製本改御届  
別製本

一書名 原何冊大中（繪圖）  
改何冊小  
（扱權得ルモノハ版權第何号ト記スベシ）



許狀ニ對シ弁解スル一能ハサル者ハ速ニ原告人ト熟議シ對決前ニ解言ヲ為シタル答書ニ原告人承諾ノ與書連印ヲ為サシム可シ

(附録第十四号)  
 (ヲ見合ヌ可シ)

第四十七條 前條ノ場合ニテ貸借滯

右ハ何年月日出投御届致シ(扱推ヲルニ出扱以下ニ代版権免許相成候処都合ニ依リ前書ノ通製本改刷製レハ前書ノ通以下ニ代原本ハ其存シ別ニ製本致度此段御届申上候也)

年月日 何職身分 氏名印 住所

内務卿某殿

ノ款ニ起ル解言ノ答書ハ償ノ既済又ハ未済ト雖モ更ニ延期ノ約ヲ結ビタル等ハ前條ニ照ス可シ各種違約ノ許訟ハ原被双方ノ孰トニ至リ又ハ更ニ改定ノ條約ヲ立テタル等モ亦前條

(地方官宛ノ書式上ニ全シ)  
 ○藏版持轉御届 旧地方へ  
 (出扱前ノ者ハ移轉出版御届記ス)

一書名 何丹

右ハ何年月日扱推免許ヲ受ケ所持候處此度何地方へ所屬換又致シ藏版持轉(出版前ノ者ハ藏版以下譲地ニ代ルニ下文ヲ用フ)方ニ於テ出版同縣へ免許料上納候

南將書式文抄

二照ス可シ

第二章 對決前

返濟延期約定

ヲ為シタル證書

ノ事

第四十八條 原誓

人對決審判前被

告入ヨリ負債ヲ

返濟スルノ延期ヲ

請ヒ原告人之ヲ兼

二付此段御届申上候也

何縣身分

年月日

氏

名印

内務卿某殿

地方宛ノ書式上ニ全シ

其二 新地方へ

出版前ノ者ハ全上

一書名 何冊

右ハ何縣ヲ經テ何年月日投権免許

諾シ其審判ヲ仰カ

ス延期ノ日ニ至リ

完ク返濟スルノ後

解訟ノ證書ヲ呈セ

ントスル者ハ其答

書ニ延期ノ旨趣ヲ

書シテ原告人兼諾

ノ圖書連印ヲ為サ

シム可シ

(附録第十五号)

ヲ見合ヌ可シ

ヲ受ケ所持候處此度何縣へ所屬換

致シ何地所へ藏版持轉(出版前ノ者

下ニ代ルニ何地所ニ於テ出版同縣へ

下文ヲ用ユ候ニ付此段御届申上候

免許料上納)

也

何縣身分

年月日

氏

名印

内務卿某殿

(地方官宛ノ書式ハ上ニ全シ)

行

三十三

第十一章 對決

前親戚又ハ朋友  
ヨリ代償ノ延期  
ヲ約シテ解訟ヲ  
為シタル答書ノ

事

第四十九條 原被告  
人對決審判前被  
告人ノ親戚又ハ朋  
友ヨリ被告ノ負

○板權免許証書換御願

一書名 何冊大中小 (繪圖ナレハハ寸法)

右ハ何年何月日板權免許相成候処

(既ニ出板シタルモノハ免許以下ニ代ルニ下文ヲ用ユ) 何年何月

出版致候処今度何々ノ事故有之ニ付免狀書換(免狀返納ナレハ書換以

返納致度此段奉願候也

何縣身分

年月日

氏名印  
住所

内務卿某殿

○板權免許料納方書式

記

一 金何圓何拾錢

六部代(寫真ナレハ十二部代)

何縣身分

何誰

何年何月日板權免許

債ヲ延期代償セ

シテ請ヒ原告人

之ヲ承諾共熟議

解訟ノ答書ニ其延

期代償ノ旨趣ヲ書

シ代償人及原告人

ノ奥書連印ヲ為サ

シム可シ

(附録第十六号  
ヲ見合ヌ可シ)

第三章 對審前

親戚又ハ朋友ヨリ代償延滞約

定ヲ為シタル答

書事

第五十條 原被告

對決審判前ニ被告

人ノ親戚又ハ朋友

ヨリ被告人ノ負債

ヲ延期代償セシ

一書名

何冊大中

何年何月出版

但一部定價 金何口何拾錢

右ハ今度刺成何月日內務省へ納本

致シ(未刺ナレハ刺成以下定價ヲ豫

定致シ候ニ付御規則ノ通免許料上

納候也

年月日 右

何府知事 某殿

氏 名 印

○板権免許狀書換ナレハ透納手續料納方書式

一金何拾錢

(免狀書換ナレハ 三部代ト記ス)

何府身分 藏版人 氏 名

板権第何号 何年月日板権免許

一書名 何冊大中

右ハ何年月日板権免許証御書換相

成(免狀透納ナレハ以下ニ 代ルニ下文ヲ用ユ) 何年何月出版

ヲ請ヒ原告人之ヲ承諾シテ其審判ヲ

仰カス延期ノ日ニ

至リ完ク返済スル

ノ後訴訟ノ証書ヲ

呈セシトスル者ハ

其答書ニ延期代償

ノ旨趣ヲ書シ代償

人及ヒ原告人ノ負

書連印ヲ為サシム

可シ  
（附録第十七号）  
ヲ見合ヌ可シ

許答文例附録  
第一号

未刺ナレハ未刺今度都合ニ依リ免  
ノ処ト記スハシ  
許証返納候ニ付御規則ノ通手数料

許狀表紙ノ式（美濃紙大半紙又ハ右寸法）  
ニ同シキ紙ヲ用ユ可シ

年月日	住所
某訴狀	身分名

某訴狀トハ假令ハ貸金ノ淹滞ヲ辨フルハ貸金催促ノ訴狀ト  
記シ流質地ノ争訟ハ流質地引渡催促ノ訴狀ト記スノ類

許狀ノ式

某訴	原告人	住所
標記云々	身分	氏分名
右原告人氏名申上候私儀云々	原告人	氏名印
年月日	若シ原告人ノ代官者アルハ 左ノ如ク加判スヘシ	代理人
某裁判所長	氏名印	氏名印

第三号 貸金催促ノ訴狀

貸金催促ノ訴

原告人

住所  
身分  
氏

名

元金何圓 (年月日貸附)

利金何圓 (年月日期限)

合何圓

住所  
身分  
氏

名

右証文ノ寫左ノ如シ

借用証文

金何圓

右云々

借主  
証人  
氏

名

保主

名當  
右原告人氏名申上候云々

年月日

某裁判所長

氏名殿

住所

身分

名印

第三号  
賣掛代金淹滞ノ訴狀

賣掛代金淹滞ノ訴

原告人

住所  
身分  
氏

名

一金壹圓

被告人

住所  
身分  
氏

名

右賣掛帳ノ總計高ニ御座候

但帳面ニ被告人ノ証印有之候

若賣掛帳ニ非スシテ証文ナレハ共証文全文ノ写ヲ出ス可シ

右原告人氏名申上候云々

年月日

某裁判所長

氏名殿

氏名印

第四号 買附米引渡違約ノ訴狀

買附米引渡違約ノ訴

原告人

住所

身分氏名

被告人

住所

身分氏名

二米何石

(年月日買取約定済此度受取ル可キ石高)

代金何円

(一石ニ付何円換)

内何円 年月日手附金トシテ渡済

残何円 年月日限現米引替ニ渡ス可キ約定

右約定証書ノ写左ノ如シ

証書云々

右原告人氏名申上候云々

年月日

某裁判所長

氏名殿

氏名印

第...号

第五号 賣附生系代金引渡違約ノ訴狀

賣附生系代金引渡違約ノ訴

原告人 住所 氏分 名

被告人 住所 氏分 名

一金何圓 (年月日限生系引替ニテ受取ル可キ殘金高)

元金何圓 (年月日生系何円賣附約定ノ金高)

租何円ニ付何圓替内何圓 (年月日手附)

右約定證ノ寫左ノ如シ

証書云々

右原告人氏名申上候云々

年月日

其裁判所長

氏名 殿

氏 名 印

第六号 妻離別ノ訴狀

妻離別ノ訴

原告人 住所 氏分 名

被告人 住所 氏分 名

夫 氏名 當何歳

妻 氏名 當何歳 年月日 娶

行...書式...各

三百三十九



某役所ニ差出置候年月日ノ戶籍人別帳ノ写  
左ノ如シ  
人別帳云々

右原告人氏名申上候云々

年月日

前書申上候處相違無御座候

氏 名印

住所

原告人祖益益等氏

名印

氏

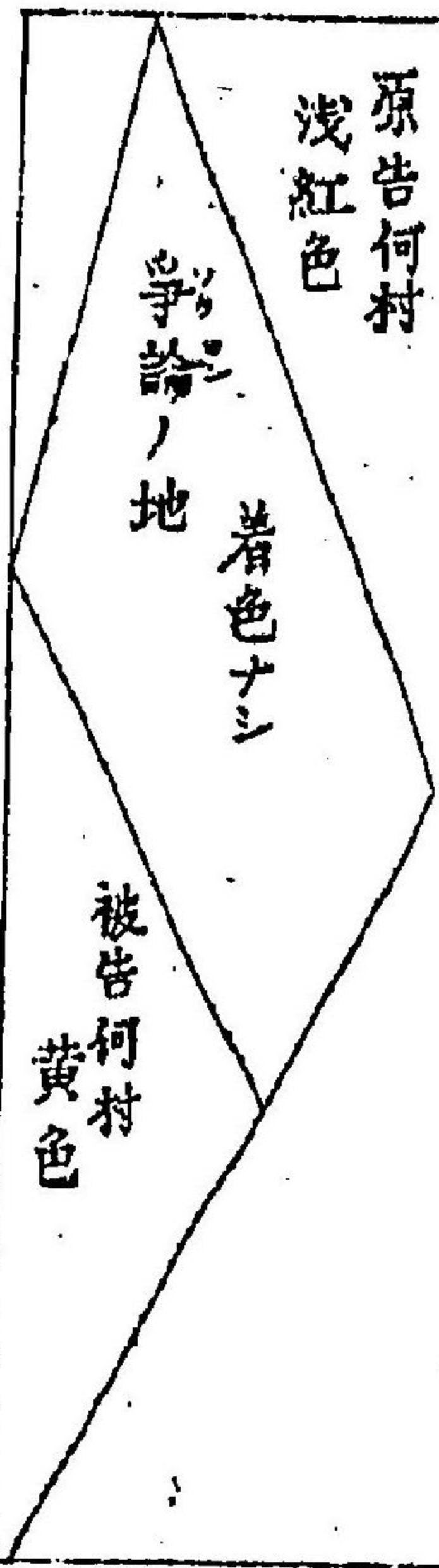
某裁判所長

氏 名 殿

第七号 經界ヲ爭繪圖ノ式

年月日ノ原圖 何故ノ  
年月日写之

住所  
原告人 氏分 名



第八号 原告三人以上ナルヲ一人ニ任スル訴狀

住所  
原告人 氏分 名

新撰書式

某ノ訴

標記云々

右原告人氏名申上候云々

年月日

被告人

住所

身分

名

氏名

前書ノ儀原告私共連名キテ御願可申上答ニ御座候処病氣云々ニテ難罷出ニ付何ノ誰ハ総代相頼候然ル上ハ何ノ誰ヨリ申上候事柄並ニ御受仕候事柄共後日ニ至リ私共ヨリ異儀申上間敷候為後證與印仕候

年月日

住所

身分

名

某裁判所長

氏名殿

住所

身分

名

第九号

被告入連名中脱走又ハ病死入アルノ訴状

某ノ訴

原告人

住所

身分

名

被告人

住所

身分

名

被告人

元住所

身分

名

右何ノ誰ハ年月日脱走致候段何町役人何誰ヨリ承知仕矣

新撰書式

三百四十一

被告人 住所 身分 氏名  
 右何ノ誰ハ年月日死七致候間何  
 役人何ノ誰ヨリ承知仕候  
 右原告人氏名申上候云々  
 年月日  
 某裁判所長 氏名 殿  
 氏名 印

第十号 讓證文ヲ以テ催促スル訴狀(明治九年第九十九号布告ヲ以テ消除セラルル故ニ畧ス)  
 第十一号 代官人ヲ頼ム訴狀(明治九年第十八号布告ヲ以テ消除セラルル故ニ畧ス)  
 第十二号 一時假リノ代官人ヲ出入證書(同上)  
 第十三号 答書表紙式(用紙寸法第一号)

年月日  
 某ノ答書  
 住所 身分 氏名

答書ノ式  
 住所 身分 氏名  
 答書  
 右住所身分何ノ誰何々ノ儀訴出候ニ付今何日御呼出  
 之御狀拜見仕御答申上候  
 私儀云々  
 證拠ノ書類アラハ其字ヲ記載スヘシ

右之通御座候

年月日

氏名印

某裁判所長  
氏名殿

第十四号

對決前熟議解訟ノ答書

某ノ訴濟口ノ答

住所  
身所  
氏名

右住所身分何之誰何ノ儀訴出候ニ付今何日御呼出  
ノ御狀拜見仕原告人へ熟談濟方仕候趣申上候

私儀云々  
年月日

氏名印

前書被告人何ノ誰ヨリ申上候通熟談濟方仕候ニ付  
此上對決ノ御裁斷不奉願候

年月日

住所  
身所  
氏名印

某裁判所長  
氏名殿

第十五号

對決前返濟延期ノ約定ヲ為シタル答書

某ノ訴濟口日延ノ答

住所  
身所  
氏名

右住所身分何ノ誰何々ノ儀訴出候ニ付今何日御呼  
出ノ御狀拜見仕原告人ハ熟談ノ上濟方日延約定仕  
候段左ノ通御座候

私儀云々  
年月日

氏 名印

前書被告人何ノ誰申上候通熟議ノ上濟方延約定  
仕候ニ付來何年月何日マテ御裁斷御猶豫奉  
願候

住所

身分

名印

年月日

某裁判所長

氏 名殿

第十六号

對決前他人代償ノ延期ヲ約シタル解訟答書

住所

身分

名

被告人

氏

某ノ訴何ノ誰ヨリ日延代償ニテ濟口之答

右住所身分何ノ誰何々ノ儀訴出候ニ付今何日御呼出

ノ御狀拜見仕原告人ハ熟談ノ上親族中何ノ誰ヨリ

日延代償約定仕候段左ノ通御座候

私儀云々

年月日

氏 名印

前書被告人何ノ誰申上候通私共ヨリ日延代償ノ約定

仕候段相違無御座候

年月日 代償人 住所 身分 氏名

前書被告何人何誰申上候通私共承諾仕候ニ付此上對  
決御裁斷不奉願候

年月日 住所 身分 氏名  
某裁判所長 氏名殿

第十七号 對決前他人代償ノ延期ヲ約シタル答書

住所 身分 氏名

某ノ訴何之誰代償濟口日延ノ答

右住所身分何誰何々儀訴出候ニ付今何日御呼  
出御狀拜見仕原告人熟談之上親族中何之誰ヨリ代償  
濟方日延ノ約定仕候段方ノ通御座候

私儀云々 年月日 氏名印

前書被告何人何之誰申上候通私共引代償濟方日延  
ノ約定仕候段相違無御座候

年月日

代償人

住所

身分

名印

前書被告人何之誰申上候通熟議之上何之誰リ  
代償濟方日延約定仕候ニ付來何年何月何日迄  
御裁斷御猶豫奉願候

年月日

其裁判所長  
氏名殿

住所

身分

名印

第十八号

外國原告人ノ訴答

訴狀

本國住所

身分

名

被告人

住所

身分

名

右原告人氏名ヨリ右被告人氏名ニ對シ當御裁判所へ  
左ノ通訴訟申上候

第一云々

第二云々

第三云々

依之原告ヨリ御裁判云々被成下度願上候事

但シ何等ノ処置ハ原告人ノ所願  
ニ候ヤ金子ノ拂力共金高何程力

右判然ト認メ其他公正ノ御裁判ヲ願フ趣ヲ認ムハシ

日本地名  
年月日

原告人 氏 名 印

某裁判所長  
氏 名 殿

第三章 控訴 上納候也

上告手續

年月日 右 氏 名 印

(明治十年二月第  
十九号布告)

何 府 長 官 宛

明治八年五月第九十  
一号布告大審院請

○ 納本添書

裁判所職制章程同

何 誰 著 譯

年同年第九十三号布

一 書 名

全部何冊 (全何冊)

告控訴上告手續別冊

全部定價何圓

ノ通改正候條書布

右ハ何年何月何日出版御届(何年月

告候事

但巡回裁判規則判

事職制通則ハ別除

候事

別冊

控訴上告手續

候処今般刺成ニ付三部納本候也

何 府 身 分 氏 名 印

年月日

出版人

氏

名 印



第一章

控訴ノ事

第一條 凡地方裁判

所ノ初審ニ服セス

シテ再ヒ上等裁判

所ニ訴ヘ覆審ヲ求

ムル者之ヲ控訴ト

云フ

第二條 控訴ハ民事

ニ止マリ刑事ニ及

内務卿某殿

(原書冊別ニ送込ノ向ハ)

追テ原書冊ハ通運會社(郵便)ニ差付也

新聞紙雜報發行願

何新聞

政治法律農工商業等類

毎日毎週毎月又無定期類

府縣國郡區町村並地何社

印刷所

全

發行所

全

印刷ノ定期

記載ノ種目

題翰

ス

第三條 控訴ハ一タ

ヒスルヲ得再ヒ

スルヲ得ス

第四條 地方裁判所

ニ於テ裁判ノ言渡

ヲ為シタル時原告

被告ノ双方又ハ一

方ノ者其裁判ニ示

服ナル時ハ裁判言

府縣國郡區町村並地住若クハ寄附

府縣華族平民

一 持主若クハ社主

氏

名

一 編輯人

全

一 印刷人

全

氏

名

一 印刷人

全

一 印刷人

全

氏

名

此他社長幹事等ノ名義ヲ紙上ハ署名  
スル者ハ前ノ例ニ準シ茲ニ列記ス

右ハ新聞紙條例ヲ遵守シ且保証金

渡ヨリ第七日マテ

二(裁判官渡ノ設立)

裁判官渡ノ事理ヲ

熟考シ其翌日ニ至

リ控訴スルヲ得

可シ但シ訴訟ノ案

件商事ニ係リ急遽

ニ控訴スルヲ要

スルノ場合ニ於テ

ハ七日内ト虽モ控

何圓為替手形若クハ銀行ノ預手ヲ以

テ管轄廳へ納置候間發行ノ義御聞

届被成下度此段奉願候也

(保証金ヲ納ルニ及ハサルモノ例ハ左如シ)

右ハ新聞紙條例ヲ遵守シ發行致度

候間御聞届被成下度此段奉願候也

(廢業ノ後更ニ再發行願出ルモノ例ハ左如シ)

右ハ何誰願人自身持主若クハニテ

訴スルヲ得

第五條 地方裁判所

ノ裁判官渡ヨリ三

箇月(三十日ヲ以テ)

過タル片ハ控訴ス

ルヲ許サス但シニ

地方裁判所ヨリ上

等裁判所ニ至ルノ

距離八里ヨリ遠キ

片ハ期限三箇月ノ

何年何月何日發行第何号限リ廢絶

ノ処今度更ニ新聞紙條例ヲ遵守シ

繼續發行致度依テ保証金云々(前例

ニ同シ)保証金ヲ納ムルニ及ハサル

モノハ發行致度以下亦前例

年月日

持主若クハ社主氏

名印

但社主ハ社主總連印ノ事

内務卿某殿

何新聞改題願

外八里毎二一日ノ  
猶豫ヲ増スヘシ

何新聞改題

一何新聞

第六條 控訴ヲ為ス  
者ハ其初審ヲ受ケ  
タル地方裁判所ニ  
届ケ出ツヘシ但シ  
添翰<sup>ソウコン</sup>之<sup>ノ</sup>フニ及ハ  
ス

右改題之義御聞届被下度此段奉願  
候也

府縣國郡町村番地住若クハ寄曲

府縣華士族平民

年月日

持書者<sup>シテ</sup>世主 氏

名印

内務卿某殿

第七條 前條届  
受取リタル地方裁

○何新聞記載ノ種目変更願

判所ハ裁判書渡ノ  
執行ヲ停止ス可シ

一現今種目

政事法律農工商業等其何々

若シ上等裁判所

一變更種目

何々

請求アル時ハ地方

右變更ノ義御聞届被下度此段奉願  
候也

裁判所ニ於テノ訴  
狀答書日書裁判  
見込等ヲ差出ス

保証金ヲ納メズ准許ヲ得タルモノ更ニ保証金  
ヲ要スル種目ニ變更スルモノ、例ハ左ノ如シ  
右變更致度依テ保証金何圓為替手

第八條 上等裁判

形若クハ銀行ノ預手  
形又ハ公債証書  
ヲ以テ管轄廳ハ  
納置候間御聞届被成下度此段奉願

前撰書式文格

ハ許答又例ニ照準候也

スヘシ

第二章

上告総則ノ事

第九條 各裁判所

終審ヲ不法テリト

シ大審院ニ向テ取

消ヲ求ムル者之ヲ

上告ト云フ、

第十條 上告スルノ

候也

（保証金ノ納メ準許ヲ得ルモノ更ニ保証金ヲ要セザル種目ニ變更スルモノ例ハ左ノ如シ）

右變更致度尤御聞届ノ上ハ是迄納

置候保証金御下渡ノ義ハ管轄廳へ

可願出候間此段御聞届被下度奉願

候也

住所番地

身分

年月日

氏

名

内務卿某殿

ヲ得ルノ事件ハ

第一 裁判所管理

ノ権限ヲ越ユ

第二 聽断定規

ニ乖ク

第三 裁判法律ニ

違フ

第十一條 大審院ハ

上告ヲ受クルノ所

ニシテ控訴ヲ受ク

何新聞讓渡願

何新聞ノ義是迄何誰持主若クハ二

候処今般何誰ニ於テ新聞紙条例ヲ

遵守シ發行致度候間今人へ讓渡ノ

義御聞届被下度此段奉願候也

（休業中出願ノ例ハ左ノ如シ）

何新聞ノ義何誰持主若クハ二テ何

年何月何日マテ發行候処今般何誰ニ

ルノ所ニアラス故  
ニ控訴<sup>コウソ</sup>可キ事  
ヲ以テ誤<sup>アヤマ</sup>テ上告ス  
ルモ之ヲ斥<sup>シ</sup>ケテ理  
セス

第十二條 陸海軍ノ  
裁判権限ヲ越ル者  
ハ之ヲ大審院ニ上  
告スルヲ得

第十三條 凡上告シ

於テ新聞紙條例ヲ遵奉シ発行致度  
候間同人へ讓渡ノ義御聞届被下度  
此段奉願候也

年月日 住所番地  
讓渡人<sup>身分</sup> 氏 名印

讓受人<sup>身分</sup> 氏 名印  
何年何月生

内務卿某殿

○何新聞刷行定期變更届

タル者已ニ大審院  
ノ判決ヲ經レ更  
ニ訴フルヲ得ス

第三章

民事上告ノ事

第十四條 民事上

告スルヲ得ル者  
ハ已ニ上等裁判所  
ニ控訴シ其審判ヲ  
經タル者ニ限ル

何年何月何日發行第何號ニテハ

隔日<sup>若クハ毎月</sup>  
一回又ハ何々

何年何月何日發行第何號ヨリ改メ

毎日<sup>若クハ毎週</sup>  
又ハ何々

右之通變更致候間此段御届申上候  
也

住所 身分  
年月日 持主若クハ社主 氏 名

警視總監若クハ地方長官宛

○何新聞發行所變更届

第十五條 上告ヲ為

サント欲スル者ハ

裁判官渡ヨリ二月

内ニ上告狀ヲ大審

院ニ捧グヘシ而シ

テ同時被告人ニ通

知スルヲ要ス若シ

原裁判所ヨリ大審

院ニ至ルハ距離八

里ヨリ遠キ時ハ二

府縣國郡區町村番地

一何年何月何日マテ

何社社号ナキモハ  
ハノ美氏名

一何年何月何日マテ

何社社号ナキモハ  
ハノ美氏名

右之通變更致候此段御届申上候也

年月日 持主若クハ社氏 名 印

宛名全上

○何新聞編輯人變更届

住所番地

何年何月何日發 何年何月生 氏 名

月ノ外八里毎ニ一

日ヲ増ス此定期ヲ

過クレハ上告スル

コトヲ許サス

上告狀中ニハ必ス

左ノ事實ヲ記載ス

可シ

第一 原告人ノ住

所身分氏名

第二 代言人アレ

全

何年何月何日發 新編輯人

氏 名

右之通變更致候間此段御届申上候也

年月日 持主若クハ社氏 名

宛名全上

○何新聞發行届

一第一号 何年何月何日發行

右發行願御届ノ御指令何年何月

ハ其住所身食  
何日御下渡ニ付今般前書ノ通發行  
致候間此段御届申上候也

第三 被告人住

所身分氏名

(林業ノ後發行スルモノ、例ハ左ノ如シ)  
一第何号 何年何月何日發行

第四 證人又ハ引

合人アレハ其住

右何年何月何日ヨリ林業ノ処今般

第五 地方裁判所

ニ出訴シ又ハ被

前書ノ通り發行致候間此段御届申  
上候也  
(廢業ノ後再ヒ准許ヲ得テ再發行  
スルモノ、例ハ左ノ如シ)

告ニテ呼出サレ

タル年月日及ヒ  
一第何号 何年何月何日發行

裁判言渡ヲ受テ  
右ハ何誰ノ氏名 持主若クハ 社主ニテ

タル年月日

第六 上等裁判所

ニ控訴シ又ハ被  
何年何月何日發行第何号限リ廢絶

告ニテ呼出サレ

ノ処今度再發行願御聞届ノ御指令  
何年何月何日御下渡ニ付前書ノ通

タル年月日及ヒ

發行致候間此段御届申上候也  
年月日 持主若クハ社主 氏名

上告狀ハ正本二冊

宛名合上

及七副本玉冊ヲ差

出スヘシ

上告狀ニハ必ス左

ノ書類ヲ添テ差出

スヘシ

第一 地方裁判所

ニ於テノ訴狀並

ニ答書ノ寫及ヒ

裁判言渡書ノ

寫

○何新聞休業若クハ届

一何年何月何日第何号ヲテ發行

一何年何月何日ヨリ休業若クハ

右御届申上候也

年月日 持主若クハ其氏 名

宛名全上

○徴兵各自届之書式

族華士族 平民 職業農工 商等

第三 上等裁判所

ニ於テノ訴狀並

ニ答書ノ寫及ヒ

判言渡書ノ寫

第三 上告狀中ニ

憑拠トナス書類

ノ寫ノ各書類ニ

番号ヲ朱書編

シテ一冊ト爲シ

又ハ葉數多ニ付

何區何村何番地

嗣子承祖孫又ハ相 続人或ハ戸主 何年月日生氏 名

右私戸主ハ私儀 何男第孫甥又 附籍 ニテ本年

何月其年ノ満二十 歳トナル月 二十歳ト相成候間

此段及御届候也

住所番職業

年月日 氏 名印

何區何村戸長

氏 名 殿



新撰書式文庫

編ニテ幾冊ト為

シタル者

右ノ訴狀又ハ答書

及ヒ憑拠ノ書類ノ

寫ヲ所持セサル者

ハ原裁判所ニ出願

シ裁判所ノ簿冊ヲ

松庭ニ取下ケ見坐

ノ目前ニ於テ之ヲ

寫シ取ルルヲ得ヘ

○國民軍入籍之届書式

族華士族職業農工

何區郡何何番地

嗣子承祖孫何年月日生 氏 名

右私何男弟孫甥又ニテ本年何月其年

十七歳ト十七歳ト相成候間此段及

御届候也

住所番地職業

年月日

戸主

氏

名印

宛名全上

○罷称者之届書式

族華士族職業

住所番地

氏 名

右私ニ男兄弟ニテ何郡何村何族何誰

養嗣子之處何年月日離縁復籍致シ

則徵兵令第三十二條相當ニ候間此

段御届申上候也

第十六條 上告者ハ

其上告狀ニ添ヘテ

若シ原裁判所ニ於

テ書類寫取ノ出願

ヲ許サハルニ因リ

上告人其寫シヲ出

シ候ハサル時ハ其

前ノ上告狀中ニ記

載スヘシ

新撰書式文庫

三百廿六

金拾四ヲ大審院ニ  
預クヘシ若シ其金

高ヲ預ケサル時ハ  
上告ヲ為スヲ得

第一若シ上告ヲ  
取上ケサル片ハ

其預リ金ヲ没入  
ス

第二若シ上告ヲ

住所身分職業  
年月日 戸主 氏 名

何郡長又ハ何誰殿

徵兵免役或ハ平時ニ願

何郡何町何番地

何年徵兵適齡

氏 名 年月日生

右誰徵兵儀私ヲ戸注ニ男ニシテ何郡何町  
何番地族何誰養嗣子ニ相成候処長

取上ケ原裁判ヲ

破毀シタル時ハ  
預リ金ヲ還付ス

第三若シ上告ヲ  
取上ケ被告入ト

對審シタル後  
之ヲ斥ケテ原裁

判ヲ破毀セサル  
時ハ預リ金ヲ没

入シ又訴訟入費

男誰儀年月日死亡又ハ廢疾致

シ跡嗣子無之ニ付年月日離縁復歸

致シ既ニ嗣子ト相定メ或ハ年月日

立戸致シ前書誰儀長男嗣子ニ候間

或ハ私儀何町何番地族何誰何男

ニテ徵集相當ニ夫処當家先代何誰

年月日死亡跡相統人無之ニ付親戚

協議ノ上第又ハ伯叔ノ縁ヲ以テ右

誰死跡相統ノ為メ今度入籍致候間

又ハ海軍兵卷局國民軍ノ外免役相

定在職ニ致候間國民軍ノ外免役相

成度別紙醫師診斷書並ニ保証相添

此段奉願候也

右

氏 名印

氏 名印

何郡何町何番地族

氏 名印

兄弟

何府縣徵兵署或支署御中

(徵兵戸主三人以上ノ保証書式)

保証書

氏 名

右者本年徵兵相當ノ者ニ候処今度

規則ニ照シテ被  
告人ノ費用ヲ償  
ハシム(被告ノ  
者ノ相手)  
方ヲ云

第十七條 上告ヲ為  
ス者ハ先ツ原審  
所ニ届出ツヘシ原  
裁判所ニ於テハ書  
類ヲ三日内ニ大審  
院ニ送スヘシ

第十八條 上告ニ付

テハ裁判ノ執行ヲ  
停メス大審院已ニ  
原裁判ヲ破毀スル  
ニ至レハ即日原裁  
判所ニ通報シテ大  
院ヨリ郵 執行ヲ止  
消ヲ發ス 執行ヲ止  
メ更ニ審判落着  
日ニ至テ前ノ執行  
ヲ取消シテ後ノ裁

別紙之通免役出願致シ諛事情ニ於

テハ聊カ相違無御座候間私共連署

保証仕候也

何郡何町何番地

何年徵兵何番地 氏 名印

全

何年徵兵何番地 氏 名印

全

宛名前ニ全シ

○醫師診斷書式

判ヲ執行セシム可

シ

但内國人ヨリ裁

判外ノ人民ニ對

シ又ハ裁判外ノ

人民ヨリ内國人

ニ對スル上告ハ

原裁判ノ執行ヲ

停止ヘシ

第十九條 上告狀ハ

診斷書

使府 何郡 何町 何番地  
縣 區 村 町 何番地  
身分 職業

氏名

何年月日生

右ハ天資強健ニシテ曾テ病患ニ罹  
リシ事ナシ 體本年何月日不圖風邪  
ニ被犯發熱 由其起病ノ原 臥褥ニ就キ  
某ニ診察ヲ乞フ爾來水瀉日二三四

原告人自ラ之ヲ捧

クルモ又ハ代官人

ヲシテ之ヲ捧ケシ

ムルモ本人ノ意ニ

任ス

第二十條 大審院ニ

於テ判事審聽シ

不當ナル上告アリ

ト決スル時ハ何々

ノ理由ヲ以テ上告

行舌乾キ口渴シ熱度隨テ昇進四十

度ヲ越ヘ一週ノ後胸腹ニ於テ紅疹

ヲ發シ肝脾ノ濁音廣大ニシ耳鳴重

聽ヲ不思 以上以下病狀ノ容子又ハ

已ニ四週ヲ經テ漸次ニ快氣ノ容體

ニ候得共全身衰弱未ク本服セザル

ニ付步行ナシ難ク及診斷候也 又ハ

症ヲ繼發シ所詮治癒

ナリ難ク及診斷候也

ヲ受理セサルノ旨

ヲ言渡ス可シ

第二十二條 判事審

聴ニテ當然ノ上告

ナリトシ之ヲ判決

スハキ旨ヲ言渡シ

タル時ハ其後二日

内ニ被告人呼出狀

ヲ仕出入可シ此呼

出狀ニハ上告狀ノ

年月日

右之者診察候処前書之通相違無之候也

候也

何府地方徴兵医員

氏名印

(朱書)

右診断書及調査候処不都合無之候也

何府某病院長

氏名印

副本ヲ添フハシ

第二十二條 被告人

ハ呼出狀ヲ受取リ

タルヨリ三十日內

ニ答弁書ヲ作り自

身又ハ代官人ヨリ

之ヲ大審院ニ捧ク

ハシ但被告人ノ住

所ヨリ大審院ニ至

ルノ距離八里ヨリ

○家族書式

何府何郡何村何番地

身分職業

戸主

何

誰

何年何月何日生

父

何

某

母

何

某

祖父

何

某

祖母

何

某

長男

何

誰

各指書式ノ本

遠キ片ハ八里毎ニ  
一日ヲ増スハシ

第三十三條 大審院

ニ於テ被告人ノ答  
答書ヲ受取リシ片  
ハ院長ヨリ判事ノ  
中ニ於テ一人ノ主  
任ヲ命ジ一件書類  
ヲ取纏テ運送スル  
一件始末書ヲ作ラ

何年月日入管

次男

何

誰

長女

何

誰

次女

何

誰

右之通相違無御座候也

何府何區何町

年月日

何府何區何町

何

誰

何府徵兵署又支署御中

○免役料上納書

白主誰何男ハ兄弟伯叔甥又附籍

何誰

何年月日生

右本年二十歳ニ相成徵集ニ可應ノ

処家事故障御座候ニ付免役料金ニ

百七十圓上納仕候間何卒國民軍之

外兵役御免除相成度此段奉願候也

何府何區何町

何身分職業

親族

氏名印

何府徵兵署御中

新撰書式ノ本

シ次ニ原告ノ陳述

事一件始末ヲ宣読

臨シ最初ニ主任判

審ノ節ハ判事席ニ

第三十四條 原被告

雙方ニ送達スハシ

審ノ時出狀ヲ原被

對審ノ日ヨリ豫定シ

三日以前ニ原被對

シメ然ル後ニ原被

對審ノ日ヨリ豫定シ

次ニ被告ノ陳述次ニ原告被交互ノ論議ヲ審聽シ而シテ後ニ原告人上告理アリト決スル片ハ何々ノ理由ヲ以テ原告裁判所ノ裁判ヲ破毀スルニ付更ニ其裁判所ニ於テ裁判ヲ受クヘキ旨又ハ

前書出願之通相違無御座候也

何府何郡何村何長

氏名印

○徴兵ハ國民軍異動届

住所番地

族誰長男ニ三男凡職業

何年徴兵通齡

何誰

年月日生

右者今度何府何國何郡何村何番地へ移轉致シ又ハ何誰養嗣子ト相成スハ誰縁ノ上族職業何

大審院ニ於テ裁判スヘキ旨ヲ言渡スヘシ

誰何男ニ付同家へ復籍致シ候間此段御届申上候也

右 戸主 氏名印

第三十五條 若シ原告人ノ上告理ナシト決スル片ハ何々ノ理由ヲ以テ上告ヲ行ケル旨言渡スヘシ

郡長ハ何郡戸長氏名殿

○軍人轉籍届書式

私儀此度何府何郡何村何番地へ轉籍全戸致シ候間此段御届申上候也

住所番地

第四章

新撰書式文様

出訴期限

（明治六年十一月五日布告）

金穀貸借ヲ始トシ物  
品賣買ヨリ其外種々  
ノ取引等ニ至ルマテ  
双方ノ者互ニ受取渡  
ノ期限ヲ定メ條約ヲ  
結ビ置キタルニ一方  
ノ者其條約ヲ破リタ  
ル時ハ早速裁判所ヘ

年月日 何年徵兵兵種何番号豫  
備軍以後備軍何等卒

氏名印

後備軍何縣駐在官

官等氏名殿

前書之通相違無之候也

何縣何郡何村

戸長 氏名印

何縣何郡

區長 氏名印

○軍人兵籍送願書式

出訴致シ不苦悉延

期ノ欺弄ヲ加ヘ出訴

ヲ見合候者モ有之是

亦慈愛ノ人情ニテ尤

ノ事ニ付早速出訴致

シ候トモ又ハ勘弁ヲ

加ヘ候トモ人民自

由ニ任セ出訴期限ノ

法則不相定候忍若延

期勘弁中數多ク歲月

私儀今度第何軍管々下何縣何郡何

村何番地へ轉籍全戸仕候間兵籍御送

リニ相成度此段奉願候也

何縣何郡何村何番地

年月日 何年徵兵兵種何番号 豫備軍以後備軍何等卒 氏名印

第何師管後備軍又ハ豫司官

官等氏名殿

前書之通相違無之候也

何縣何郡何村

新撰書式文様

三百六十五



過去り出訴致候  
 時ハ貸方借方請入証  
 人ノ内死亡又ハ轉住  
 又ハ失踪等ノ者モ有  
 之事理曖昧ニ至リ  
 裁判上不都合不少候  
 ニ付訴訟ノ事柄ニ因  
 リ夫々出訴ノ期限ヲ  
 定メ候条來明治七年  
 一月一日ヨリ後ニ結

戶長 氏 名 印  
 何縣何郡  
 郡長 氏 名 印  
 後備軍駐在官  
 官等氏 名 印  
 ○軍人結婚願書式  
 何府何郡何村  
 何縣何郡何村  
 族籍職業何誰何女何歳  
 何年何月何日生  
 何年何月

ヒタル條約期限ニテ  
 右出訴期限ヲ過去リ  
 出訴セサル者ハ自分  
 條約ヲ取消シタル者  
 ト着候シ受取ル可キ  
 者ハ受取ル可キ權利  
 ヲ失ヒ引渡ス可キ者  
 ハ引渡ス可キ義務  
 ヲ免レ候事ト相定  
 候ニ付キ若シ出訴致

其儀  
 今般熟談之上右ニ記載之者ト結婚  
 致シ度依テ別紙身元證書 家計保護  
 相添へ差出候間御許可被下度此段  
 奉願候也  
 年月日 官等氏 名 印  
 陸軍 兩長官宛  
 前書之趣篤ト取調候処不都合無之

新撰書式文格

此候上毛取上不致候ニ付御許可相成度候也

此旨布告候事

出訴期限規則

第一條

一 學藝ノ授業料

一 旅籠料

一 運送賃

一 飲食料

一 手附金

一 商人互ノ賣買金

陸軍兩管何隊長

官等氏名印

○身元證書之式

何縣何國何區何町

身元職業

何誰何女姓

何年月日生

何年月月

右者行狀端正之者ニ有之候此段保

一 職入ノ手間代金

一 日雇入ノ給料

一 請負金

一 芝居等ノ木賃

一 機敷錢等

一 男女藝者ノ揚代金

右ハ六月限

第二條

一 醫師ノ脈診及藥

証致シ候也

何縣何國何區何町

台長地長

氏名

年月日

○婚姻濟御届

何縣何國何區何町何番地

身介何誰何女

何年月日生

右者何年月日願濟ニ而何年月日婚姻

相整シ候間此段御届申上候也

料

一授業師ヨリ月第三  
給興シクル飲食料

一商人ヨリ商人ニ非  
ラサル者ノ費

代金  
一二年期ニ奉  
公入給料

右ハ一年限  
第三條

何府何郡何村何番地

年月日  
明治何年機井兵種何番号  
後備軍(後備軍)何等氏  
官等氏名印

後備軍何府駐在官

官等氏名殿

前書之通相違無之候也

何府何郡何村  
戸長 氏 名印

何郡何  
區長 氏 名印

一期限ヲ定リシテ貸  
附米金及ヒ利息

レハ其利息  
一期限ヲ定リシテ預  
米金及ヒ利息

ハ其利息  
一家屋及ヒ土地ノ借  
賃

小作米金  
一証金

○教導團入學額書式

(第一号書式)

教導團入學額

某 儀

陸軍出身志願ニ付此度教導團生徒  
入學仕度候間御検査之上御採用被  
下度入學ノ上ハ固ヨリ御規則嚴重  
ニ相守リ誓ヒテ陸軍ニ従事可仕万  
一  
行狀不正又ハ卒業ノ目的無之ヨリ

- 一 數金
- 一 物品ノ借賃又ハ損料
- 一 養育料
- 一 七ヶ年期マテノ奉公入給料
- 一 期限ナキ年金及一生注ノ年金

退學ヲ命ゼラレ候共決テ違背不仕御定期ノ服役年限ヲ相終リ可申且又本人身上ノ儀ハ何事ニ依ラス身元引受人ニ於テ引受可仕依テ履歷書相添引受人連署此段奉願候也

何職身分職業  
戸主名何男(兄弟伯叔)  
 何共料  
何村志  
 氏名印  
何年月日生

何國何郡何村何庄  
 何方何回何郡區  
 何年何月何日生

第四條

- 一 條約証書中期限キ者ハ出訴ノ目ヲ以テ期限ト看做候故何時出訴致シ候テモ苦シカラザル事
- 一 第五條
- 一 従前取結ヒタル條約ニテ明治六年十二月三十一日以前

身元引受人  
 何職身分  
 住所番地  
 氏名印

年号月日  
 氏名印

陸軍教導團長官氏名殿

右之通額出候ニ付取調候必相違無シ之候也

何村何郡何村何庄  
(戸主名何男)  
 氏名印

明治六年十二月三十一日以前

三番六十七

條約期限ノ切レタ  
ル事件ハ右明治六  
年十二月三十一日  
ヲ條約ノ期限ト看  
做ス可シ又從前結  
ビタル條約ニ其  
期限ノ明治七年一  
月一日後ニ及ス事  
件ハ條約期限ノ切  
シタル翌月ヨリ算

(第二号)  
○公履歷書

何身分職業  
凡生何界(兄弟伯叔)  
何年何月種痘(天然痘)  
氏名  
何年月日生  
何年月月  
一何年月日任何官(補何等出仕免本官出仕被免)(何省(府縣)(何廳)  
一何年月日何職被申付(何職被免)上  
一何年月日ヨリ何年何日迄何學校塾

一條第二條條  
種類ニ從ヒ出  
ノ期限ニ起算致  
ハキ事  
但明治五年章  
第三号ノ布告  
三條ニ定ムル  
規則ハ格別ナ  
トス

(明治十年一月廿九日  
布告第三十二号)

入學何科卒業何學修業  
一何年月日ヨリ何年月日迄何學研  
究(商業)ノ為メ何處留學(滯留)  
一何年月日何々ニ於テ賞典何々下  
賜ル  
一何年月日何々ノ科ニ依テ何罰申  
付ラル  
右之通相違無之候也  
年 月 日  
本人 氏名 印

三番六八

預多金穀、訴訟其  
 証書中ニ封印、依預  
 リ置候故、或預中  
 融通使用、為サ、ル  
 明文アルモノハ年數  
 ニ拘ハラズ受理スヘ  
 キ成規ニ候、然自今三  
 十年以後ニ係ルモノ  
 ハ一切裁判不為候條  
 此旨布告候事

右身元引受人

氏名印

(第三号書式)  
 戸籍明細書 用紙願書ニ付シ

祖	父	何、姓女	某名全
祖	母	何、姓女	某名全
実	父	何、姓女	某名全
実	母	何、姓女	某名全
養	父	何、姓女	某名全
養	母	何、姓女	某名全
兄		(義兄)	某名全
弟		(義弟)	某名全
姉		(義姉)	某名全
妹		(義妹)	某名全

某名全 (何年月日) 某名全 (何年月日)  
 某名全 (何年月日) 某名全 (何年月日)  
 某名全 (何年月日) 某名全 (何年月日)  
 某名全 (何年月日) 某名全 (何年月日)

明治九年四月十七日  
司法省達第百四号

區裁判所或ハ裁判所  
支廳ニ勸解願出候者

勸解中出訴期限満  
 期ノ者処置方左ノ通  
 可相心得此旨相達候  
 事

第一條 勸解出願ノ  
 者勸解中ニ出訴期  
 限ノ満期ニ至ル者

氏神 何神社  
 宗門 何宗何寺

右之通ニ候也

年月日 本人 氏名印  
 右身元引受人 氏名印

○士官學校生徒入學願

何府身分 何身元引受人  
 父(兄)何男(弟)或ハ何女  
 何年何月何日 何年何月何日

新撰書式文略

ハ其勸解不調<sup>レ</sup>翌日ヨリ滿三十日迄ハ出訴期限ノ猶豫ヲ與<sup>ラ</sup>ヘシ

第二條 勸解調ハサ

凡時右滿三十日迄ニ府縣裁判所ニ出訴ヲ為サ<sup>ル</sup>ルニ於テハ其事件ニ付出訴スルノ權利ヲ抛

右之者此度士官學校へ入學奉願候處行狀方正ノ者ニ候間御檢査ノ上御採用被下度此段奉願候也

何回何郡區町村  
何番地住(氏名)

士官學校長官氏名殿

(一) 履歷書式ハ故導團入學ニ全シ者考ス可シ

○ 巡查志願

業シタル者ト着做

ス可シ

(明治十二年三月十日)

司法省達下第(九号)

裁判執行ノ出訴期限

ニ付高知裁判所ヨリ

甲号ノ通伺出三因リ

乙号ノ通太政官ノ伺

候処伺ノ通ト御裁令

有之ニ付丙号ノ通及

指令候條為心得相

私儀當管下巡查職奉勤仕度御檢査奉願候也

住所番地

年月日

志願人

氏

名

何年何月

保証人

氏

名

前書ノ趣相違無之候条與書曰如此候也

所長

氏

名

地方長官宛

○ 巡查奉職受書

新撰書式文略

三五七

違候事

甲号 高知裁判所長

判事石井忠基二十

年二月

明治八年四月廿五日

滋賀縣衙ノ御指令ヲ

玩味スルニ主タル訴

件ニ附帶シ訴訟費

曲者ヨリ直者へ償却

可致旨裁判言渡後

今度御試験相濟巡查拜命任候然ル

上ハ御規則ヲ遵奉シ専ラ職務精勤

可仕候仍而御受書如此候也

年月日

巡查 氏名印

右之者巡查職志願ニ付御試験之上

巡查拜命仕候然ル上ハ御規則ヲ遵

奉セシメ本人身上ニ付万事引請可

仕候仍而保証狀如此候也

直者ヨリ滿六ヶ月ヲ

經過シテ其償却ノ語

求スルハ出訴期限

第一條ニ拠リ直者ニ

於テハ要償權利ヲ失

シ曲者ニ於テハ期間

得免ノ權ヲ得ルニ然

ルニ主タル訴件ニ限

リ權利者ニ於テ法律

數年ノ久ヲ經過スレ

年月日

住所

氏

名印

○代言願

本貫住所(尋常ノ時其寄)

身分

氏

年 名 齡

代言營業仕度ニ付御試験ノ上免許

被成下度此段奉願候也

右



氏裁判執行ノ請求ス  
ルヲ得ルハ此當ナラ  
サル様被相考等シテ  
是レ直者ノ曲者ニ於  
ケル如ク本案ニ關ス  
ル(賣掛代 等ノ訴件  
モ初審又ハ終審裁判  
言渡當日ヨリ起算シ  
夫々該訴ノ種類ニ應  
シ出訴期限ノ的條ヲ

年月日

氏 名印

司法卿某殿

前書ノ通出願候ニ付與印致候也

右戸長(又ハ區長)

氏 名印

○全履歴書

本貫住所(寄留ナル時ハ其  
寄留所)

身分職業

氏 名

年 齡

經過シテ權利者ヨリ  
裁判執行ヲ請求スル  
ハ權利者ニ於テハ  
裁判權利ヲ拋棄シ裁  
務者ニ於テハ其裁務  
ヲ免レタルモノト者  
做シ裁判執行ノ請求  
狀及卸下可然哉善意  
御指令ヲ仰キ候也  
乙号 太政官へ上申

一地名身分何某ニ隨ヒ何年ヨリ何

年迄何學修行何某ニ隨ヒ何技術

ヲ修行

一何年月日何(官職)ニ任シ何年月日

(免官辭職)

一何年月日何々ノ廉ヲ以テ何廳ヨ

リ賞典ヲ受ク

一何年月日何々ノ犯罪ニ依リ何ノ

(十二年二月八日)

別紙高知裁判所同、  
趣ヲ審思スルニ裁判  
言渡ノ後更ニ執行ヲ  
請求セズ在再成月ヲ  
經過スル者ハ固ヨリ  
期滿得免ノ効ヲ得ヘ  
シ何トナレハ裁判言  
渡ニ因リ裁判ヲ執行  
スルノ權義ヲ生ゼシ

刑ヲ受ク

一何年月日身代限りノ処分ヲ受ケ  
何年月日辨償ノ義務ヲ終フ  
右ノ通ニ御座候也

年月日

氏名印

○代官引續願  
免許狀紛失氏名改換ノ時ノ願書モ此式ニ倣フ

引續代官營業仕度候ニ付キ免許狀  
御下附被成下度此段奉願候也

スルヲ以テ其權義ニ  
付必ス期滿得免ノ効  
アラザルベカラザレ  
ハナリ抑モ斯ノ期滿  
得免ハ訴訟原告等種  
類ニヨリ期滿得免ノ  
長短ニ拘ハラサル可  
シ蓋シ裁判言渡ナル  
者ハ双方ノ間ニ更ニ  
裁判上ノ契約ヲ生ゼ

年月日

氏名印

司法卿某殿

○寺院住職進退願

一私義病氣ニ付寺役難勤候ニ付隱居  
又事故アリコトシテ  
テ何寺轉任後住職之儀  
ハ相續候為仕度候依而履歷書相添  
連署之上此段奉願候也

シムルノ理アルヲ以テナリ我國現行出訴期限(六年第三五六)ヲ視ルニ裁判執行ノ出訴期限ニ於テハ明文アルコトナシ而其最モ長キ者五年ナリトス因テハ該何ノ如キ訴訟原案ノ種類拘ハラス滿五年ヲ以

何郡何町何番地  
何寺住職  
氏 名印  
全  
氏 名印  
全  
氏 名印  
檀中惣代  
氏 名印

○全復麻生書  
何縣下何國何郡何町何番地  
身  
氏 名  
何年何月何國何所何寺ニ於テ得度  
ス何年何月ヨリ何年月迄何所何寺

テ期限トナスコト九  
當ト思考スルニ因リ  
左ノ通指令可及ト存  
候得共明文ナキヲ以  
テ此段申禀候也  
丙号 指令  
何ノ越裁判執行  
出訴期限(出訴期  
限規則第三條準  
拠シ五ヶ年タル可

ニ於テ修學何年月日何縣下何國何  
郡何町何番地何院何寺住職何年月日教  
導職何講義  
教正拜命ス  
右之通相違無御座候以上  
年月日  
氏 名印  
○住職解免願  
何郡何町何番地  
何宗何寺住職  
氏 名

新撰書式

第五章

訴訟入費償却規則

(明治九年四月廿三日)  
司法省達第五號

訴訟入費償却規則左

通改正候条此皆弁

違候事

第一條 訴狀其外書

類認料(一枚十枚以上者計二枚以下モ全價)

一私儀從來當院住職罷在候処元來

質寺ニテ何分ニモ活計立兼候ニ付

此度断然ト歸俗仕度候間何院住職

御解免被成下度奉願候也

年月日

右

氏

名印

○公債証書書替願

私儀何縣下何國何郡何村何之誰ヨ

リ別書金高之証書ヲ讓受候ニ付テ

右定限

第一 原告ノ訴

狀ノ正本副本

第二 被告人ノ答

書ノ正本副本

第三 訴狀又ハ答

書中ニ記載シ難

キ證據ノ書類ノ

寫

第四 審判中原告

ハ私姓名ニ御書改メ被下度此段奉

願候也

住所番地

年月日

讓受人 氏

名印

讓渡人 氏

名印

○公債証書讓渡ニ付檢印願

一公債証書何千何百圓也

内 一何百圓何枚

右証券此迄所持罷在候処此度何